

川と文化

嘉瀬川交流軸 講習会

令和8年5月16(土)

矢ヶ部輝明

自己紹介

- 佐賀大学土木工学科修士 2 期生
- 荒牧研究室（構造研究室）で、軟弱地盤解析をテーマに勉強
- 建設コンサルタントの就職の面接の際に、「専門は？」と聞かれて・・・
- 入社して配属されたのが、「開発研究室」
- 最初に担当した仕事が、「環境」

自己紹介

+川に関わる文化調査の紹介

- 河川環境、ダム水源地域再建計画、・・・
- 筑後川における河川管理と地域文化との関係を再構築するため、川と人々との係わりに関し、文化的側面から種々の調査・分析を行った「**筑後川流域文化調査**」に平成7年度から3年間携わった。
- 石井樋歴史水辺公園計画・設計、嘉瀬川・遠賀川・矢部川河川環境管理基本計画等・・・

皇太子ご成婚事業として、石井樋の歴史・水辺公園計画が始まる。

全体計画を取りまとめる仕事に携わる

平成8年頃の石井樋構想図



河川をもっと自然な川にすべく、「多自然型かわづくり」が始まる。

全国に先駆けて、九州地方整備局では、そのための手引書を作成。

手引書作成の中心メンバーとして担当。



河川部技術研究会 委員構成

委員	平野 宗夫	九州大学教授
委員	落合 英俊	九州大学教授
委員(特別)	桜井 善雄	信州大学教授
委員(特別)	水野 信彦	愛媛大学教授
委員	馬場 紘一	九州地建 河川部長
委員	川上 義幸	九州地建 河川調査官
	(田中 慎一郎)	(九州地建 河川調査官 前任)
委員	今村 勝志	九州地建 河川情報管理官
	(菊池 考次郎)	(九州地建 河川情報管理官 前任)
委員	吉村 佐	九州地建 筑後川工事事務所長
	(林田 彪)	(九州地建 筑後川工事事務所長 前任)
委員	安田 実	九州地建 武雄工事事務所長
	(川上 義幸)	(九州地建 武雄工事事務所長 前任)
委員	竹中 幸生	九州地建 九州技術事務所長
	(村上 晃)	(九州地建 九州技術事務所長 前任)
委員	佐藤 幸甫	(財)建設工法研究所
委員	森本 茂雄	(株)フジタ 九州支店
委員	武内 重信	(株)建設技術研究所 福岡支社
委員	小野 満司	小野田ケミコ(株) 福岡支社
委員	末廣 孝義	八千代エンジニアリング(株) 九州支店
委員	下川 清美	(株)柿原組
オブザーバー	河川計画課長	河川調整課長
	河川管理課長	河川工事課長

河川部技術研究会 作業部会

九州地建	河川工事課長	村山 上下 隆 弘	村山大田田中宮上酒高林浦岡後竹	上下串上中村原村井橋田山本藤下	隆洋好敏満星幸恭正英清洋正信昌	弘征春博昭剛嗣一郎一成一美孝次			
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川計画課補佐	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課係長	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川管理課係長	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	遠賀川工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務課長	村山 上下 隆 弘							
	調査課長	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課係長	村山 上下 隆 弘							
	直方出張所係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	筑後川工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
	調査課係長	村山 上下 隆 弘							
	調査課技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課係長	村山 上下 隆 弘							
	工務第2課係長	村山 上下 隆 弘							
	調査課技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川工事課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
	主任	村山 上下 隆 弘							
	技官	村山 上下 隆 弘							
九州地建	河川調整課	村山 上下 隆 弘							
	補佐	村山 上下 隆 弘							
	係長	村山 上下 隆 弘							
九州地建	熊本工事事務所	村山 上下 隆 弘							
	工務第1課長	村山 上下 隆 弘							

はじめに（イントロダクション）

- ▶ 「文化」は精神性や生活様式、美意識など内面・精神・地域固有の営みを指す。
- ▶ 「文明」は技術や制度、都市化・合理化など外面・物質・普遍的な仕組みを指すことが多い。
- ▶ 「文化」が精神的豊かさ、「文明」が物質的・技術的發展を象徴し、両者は対比的・包摂的に用いられる

文明の発展は、外部を便利にする。

物質的

グローバル化・普遍化

一方の文化は

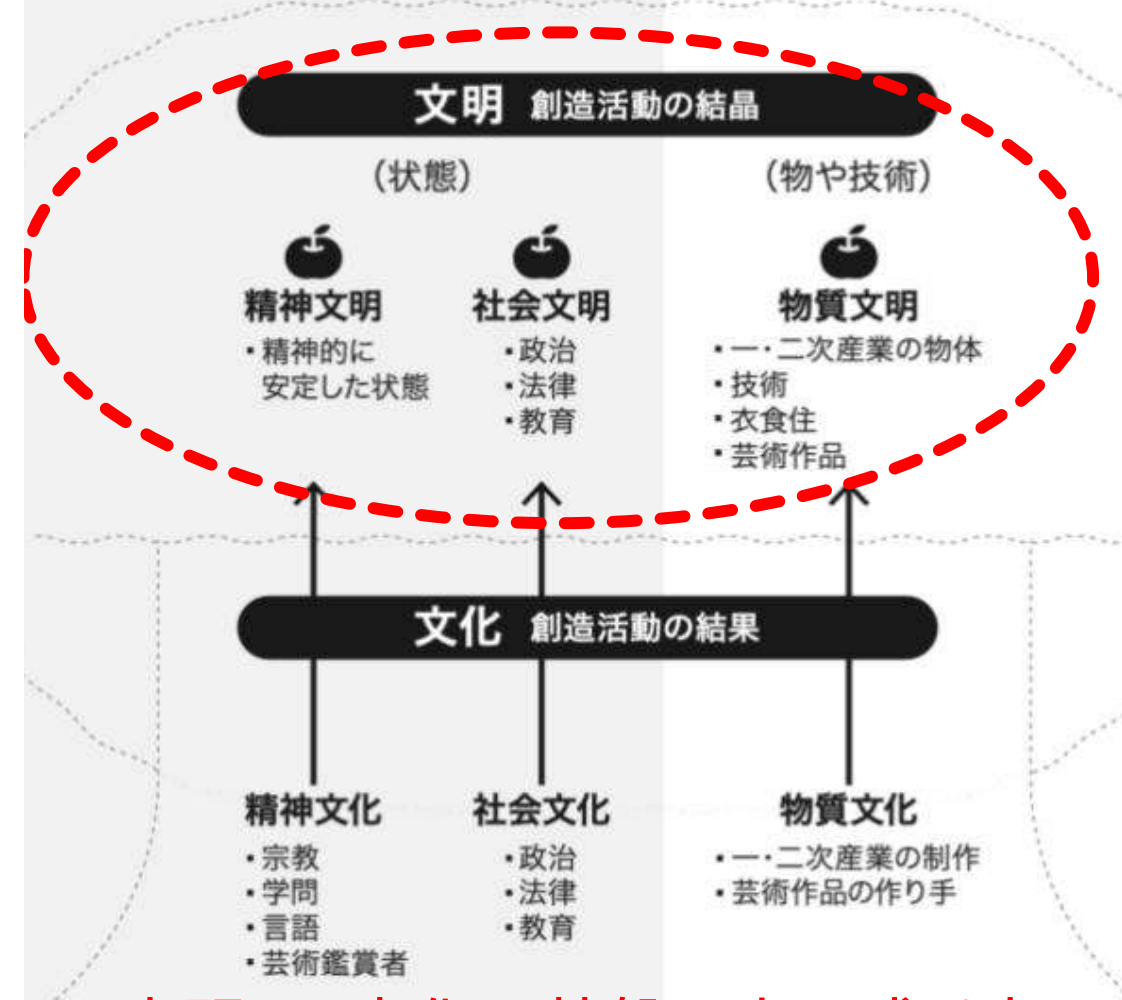
内面を豊かにする。

地域固有性（個性）

「文化」は、地域の基盤

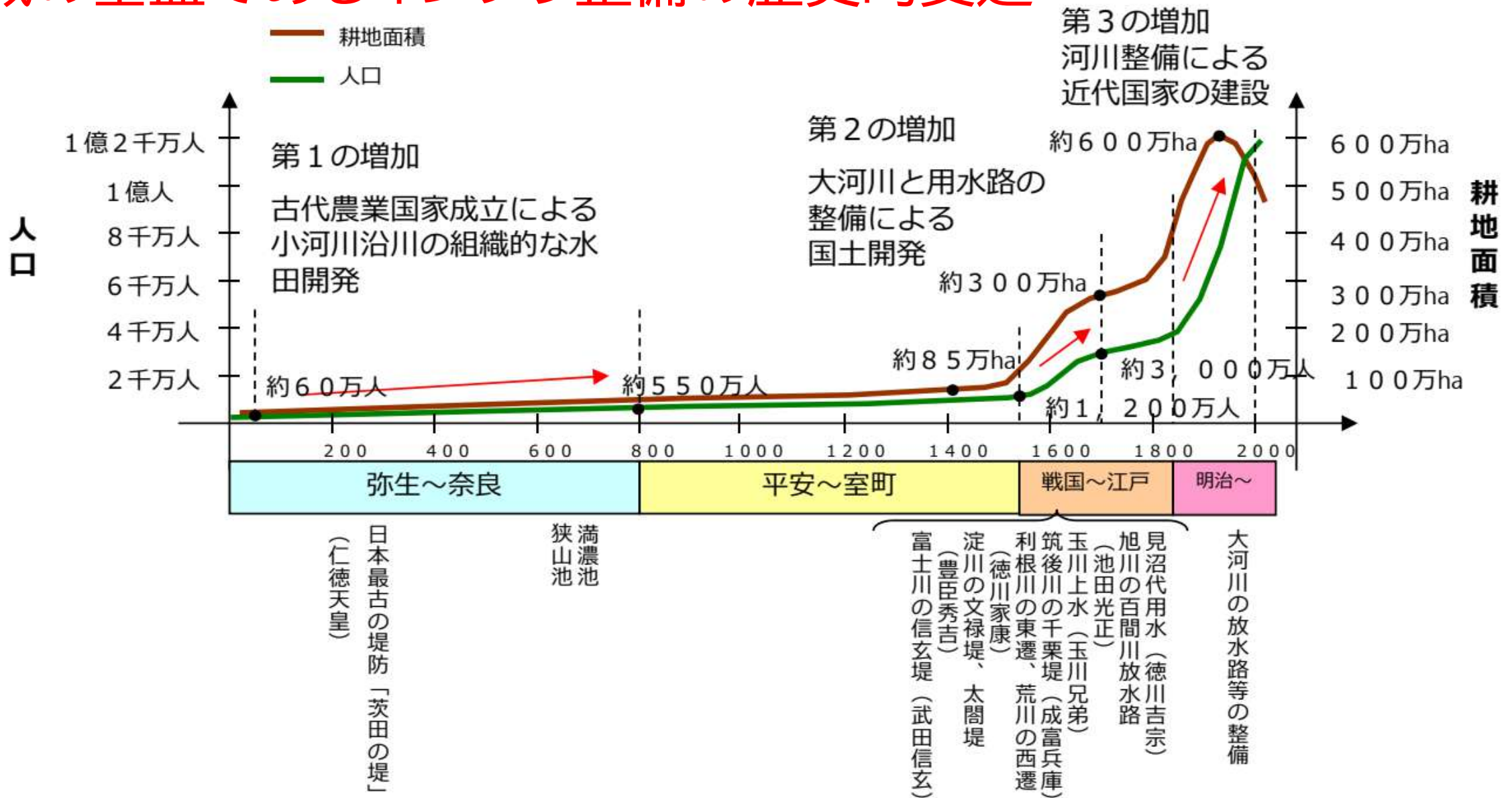
文明は、文化の上に成り立っている。
今、それを忘れている？ 思いを寄せていない？
そうすると、地域の個性はなくなっていく。

現代人は、文明への意識が強い？



しかし、文明は、文化の基盤の上に成り立つ

地域の基盤であるインフラ整備の歴史的変遷

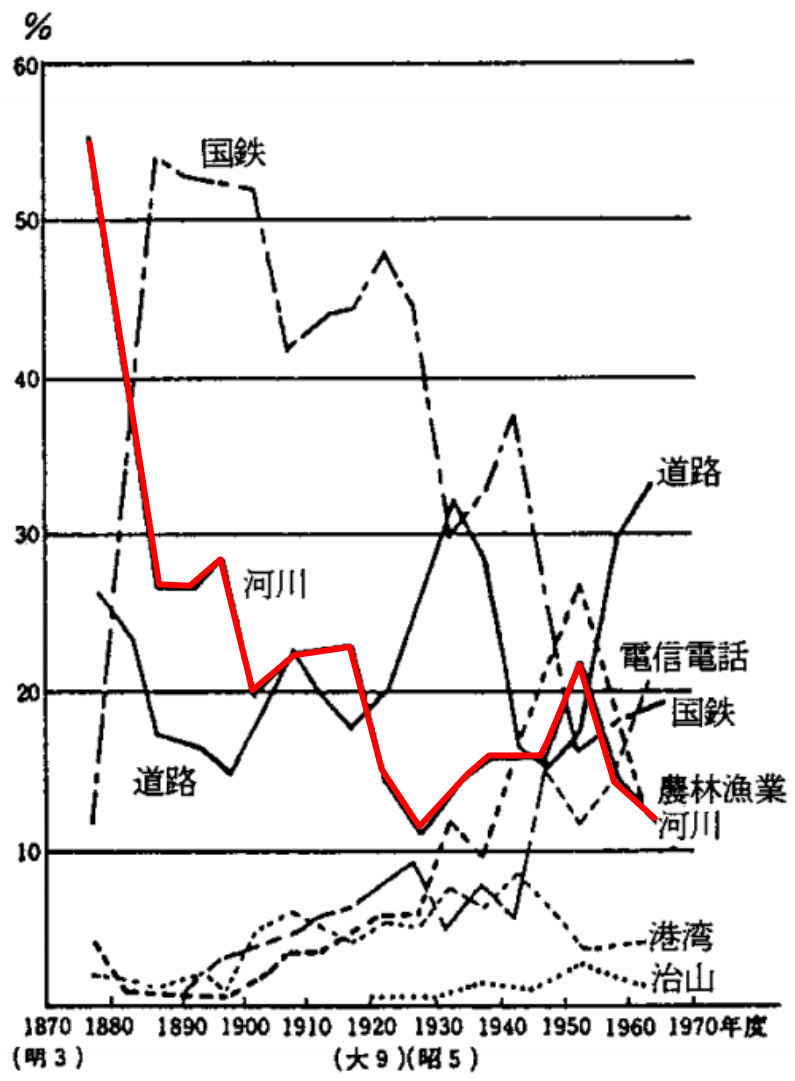


歴史的変遷にみる河川と国土発展

明治当初、河川にかけるインフラ投資額は、全体の50%以上を占めていた。その後、鉄道にとって代われ、現在は、道路事業に最も多くの投資額がかけられる様になった。

河川 ⇒ 鉄道 ⇒ 道路

ただし、1980年以降は、また傾向が変わってきている？



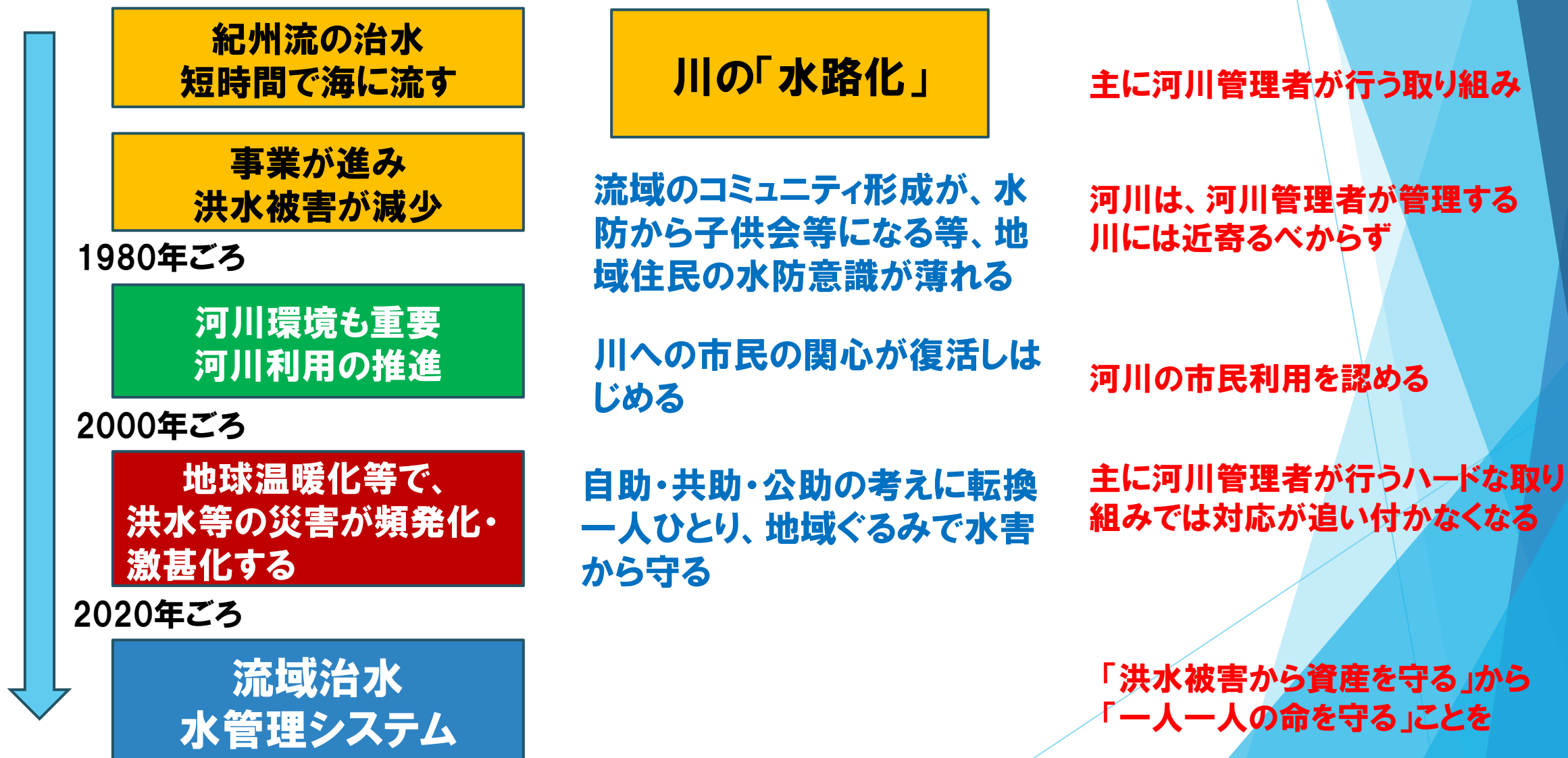
〔資料〕坂本守幸：『公共投資 100年の歩み』1981.12.1

図-1 インフラ投資の施設別構成比

1877 ~1962年度 (1960年度価格による5カ年平均値)

近代の河川事業と国土発展

なぜ、今、「流域治水」の流れになってきたのか？

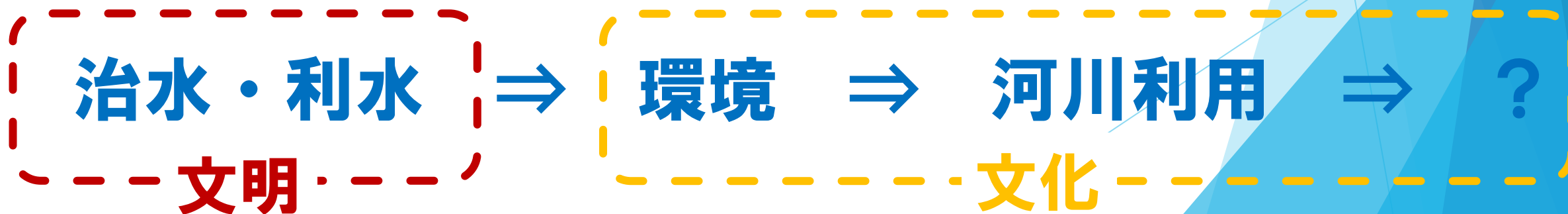


なぜ、川と文化の話をするか。

河川の主要テーマの歴史的変遷をみると・・・

治水・利水 ⇒ 環境 ⇒ 河川利用

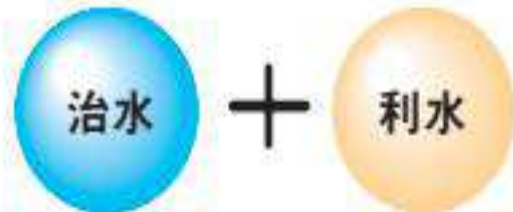
これを「文明」、「文化」でくくると・・・



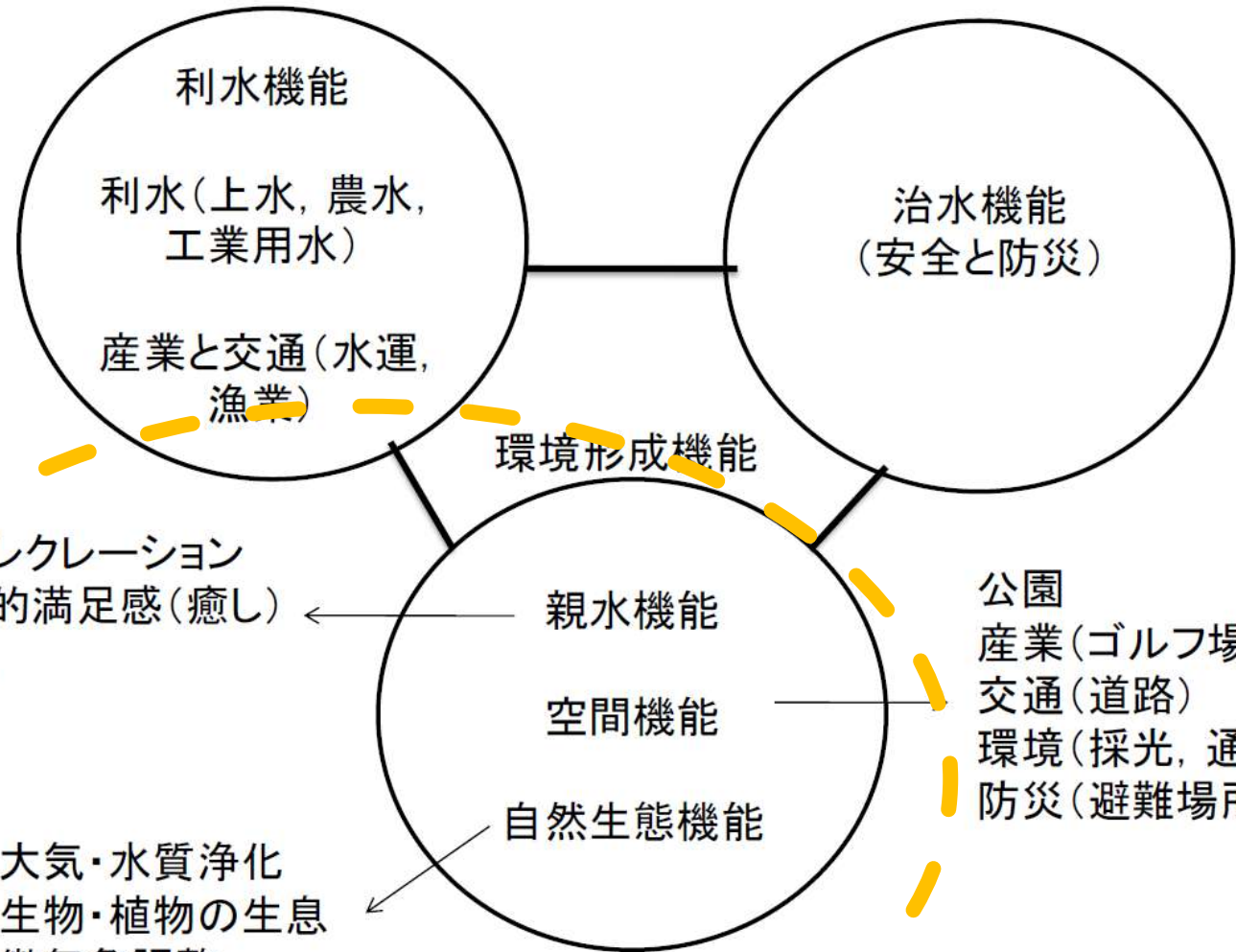
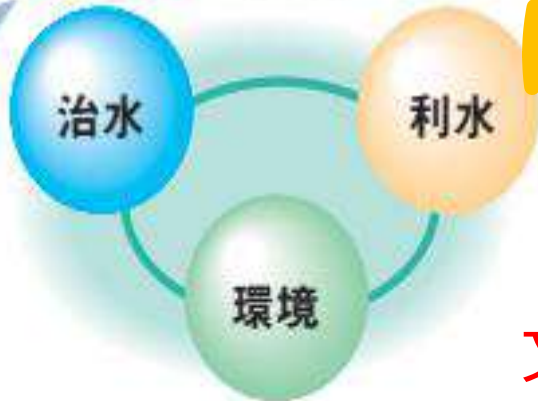
M.29 1896



S.39 1964



H.9 1997



水辺レクリエーション
心理的満足感(癒し)
景観
公園

公園
産業(ゴルフ場など)
交通(道路)
環境(採光, 通風)
防災(避難場所)

大気・水質浄化
生物・植物の生息
微気象調整

文化的な側面が強いテーマ 河川環境機能

日本の河川をめぐる環境問題における中心的課題の変遷

環境 = 公害 の時代

1960年代: 水質汚濁

公害問題



1970年代: 親水活動

水がきれいになってきた
水辺に近寄りたい

物から心 の時代



1980年代: 空間計画

都市を流れる川に
広場空間への要求



河川法の改正(1997)

1990年代: 生態環境

人間中心から、
生き物との共生へ

持続可能な発展 (sustainable development)
生物多様性条約

河川を文化的な側面で捉える動きの表れではないか！ 個性！

かわまちづくり について

河川を文化的な側面で捉える動きそのもの！ 個性！

■水辺の利用は「ダメ!ダメ!」から「やれるかも!」へ

平成23年に河川法の規制が緩和され、水辺が利用しやすくなりました。

<旧来の規制>

主体は公的機関に限定。
公共性、公益性が重視されていた。

~~飲食施設~~

~~民間施設~~

No

No

<規制緩和で>

民間の参入が可能。
カフェ施設やイベント実施などが可能に。

イベント

オープンカフェ

OK!

売店

船上食事施設

川床

河川は、水害から市民生活を守るという視点から、国や都道府県毎に整備され厳しく管理されていました。

しかし昨今、水害対策だけでなく、水辺の美しいまちづくりを目指して、規制緩和が進み、市民や民間のチカラ(カタイお役所では考えつかない知恵やノウハウ!)を積極的に活かそうと、全国の水辺は動き出しています。

- ▶ 一昨年の勉強会では、「河川環境の変遷」について、そして、昨年の勉強会で、「嘉瀬川とふれあう文化を育む」を、今後の河川と市民の在り方として提案。
- ▶ 川と人々のかかわりを歴史的変遷で見ると、
治水⇒利水⇒環境⇒文化？

地域の魅力を生み出す一つが、「嘉瀬川を軸とした川の文化」を生み出すことではないかと提案。

河川利用の変遷と新たな動き

近年の河川利用の流れと今後の利活用の方向性

嘉瀬川交流塾資料



令和7年5月17日

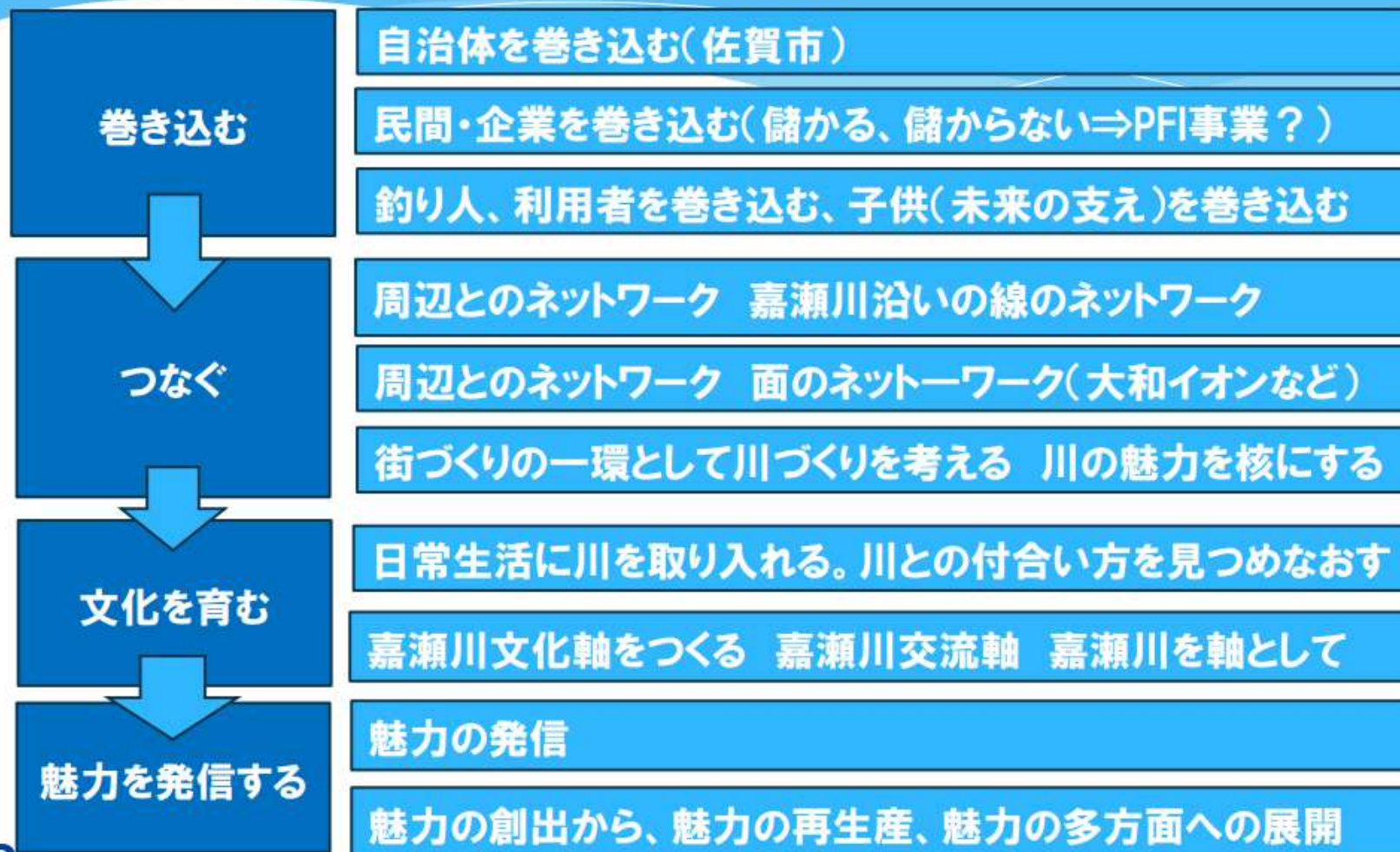


矢ヶ部輝明

時代	考え方	河川管理者	市民	社会的な状況・動き
治水・利水	洪水への対処（水路化）	災害（洪水）から国民を守る唯一の存在 川へは入るな、近寄るな	洪水が起きるのは河川管理者のせいという意識	
 公害の顕在化	汚染された水が流れる水路	水質事故への対処	川へは近寄らない、遊ばない	
環境（公害対策としての） 1960年代ごろから	健康被害をなくす	清流ルネッサンス等の事業	きれいな水が流れる川への要望	
景観・親水 1970年代ごろから	街に彩を添える川の存在	治水優先は変わらず 環境的機能は、付帯的存在	散歩、スポーツ、レクリエーションの空間としての河川利用 水辺へのふれあい 河川への転落事故の発生	親水が普及する一方で、川の被害・事故への危惧が高まる 河川管理者の責任が問題化 学校の指導（川に近づくな）
多自然 1990年代ごろから	人の手は3割、自然の営みを尊重した川づくり 生き物などが川に戻る	自然との共存を考慮した川づくり	川に生息する生き物とのふれあいが再開（釣り、水遊び）	川の楽校など（指導者立会いの下での川遊び） 「みずがき」の復活？
 災害の激甚化・頻発化	減災への方針転換 災害（洪水）から国民を守る唯一の存在であることをやめる 自助・共助・公助の考え 市民が川への意識・興味を持ってもらうための取り組み			自助・共助・公助の考え
かわまち 2010年代ごろから	川の魅力・価値を街づくりに積極的に取り組む	積極的な河川利用の推進 河川空間利用の整備の支援 民間参入の容認（河川空間での企業収益の確保が可能に） 河川空間でのPFI事業	川は、地域のシンボル 川は、人々の集いの場に	地方の時代 デジタル田園都市構想 公園PFI
今後の川のありかた 2030年代ごろから？	地方の時代 川は、地域の魅力の核となる川を、地域づくりの軸とする 川に、人々が集うようになる 川が、地域の魅力を創出する川で、まちづくりを行う	河川の維持管理は、市民、関係市民、企業、地方自治体を取り込んで行う。 河川は、地域が主体的に維持管理に努め、河川管理者はそれを支援する	河川は、市民が中心となり、守り育てる存在だとの認識が定着する	川をはじめ豊かな自然に囲まれた地域で生活することで、幸福度が高まる。

POINT3 すでに河川利活用を取り巻く環境は作られつつある

嘉瀬川とふれあう文化を育む



AIに「川と文化について教えてほしい」と入力したところ・・・

川と文化

—川は文明のゆりかご—

▶川は単なる水の流れではなく、人間の暮らし・信仰・産業・芸術を形作ってきました。

①生活を支える基盤

水の供給：飲料、農業、家畜、・・・

肥沃な土壌

交通路

②信仰と精神文化

川は、「境界」になる

川の水は、「浄化」の象徴になる

日本では、禊（みそぎ）や水神信仰、三途の川
「この世とあの世」「清と穢れ」

③産業と技術

交通路：水運、水運による商業都市の発展

エネルギー：水力発電

川は、経済を回すエネルギー源でもあった

④ 芸術・文学への影響

川は、「変化」と「永遠」を同時に感じさせる存在。時間の流れを象徴する存在。

絵画や和歌の重要な題材

音楽や物語の舞台

川は、命を支え、信仰を生み、経済を育て、芸術を刺激する存在である。

・・・と、なかなかAIも適切な回答をしてくれた。

1. 川と文化

「筑後川流域文化調査」で調べたもの

- ① 民話・伝承（民話，伝承，ことわざ，迷信）
- ② 名称（地方名，河川名，名勝旧跡の名，山岳名）
- ③ 生業（伝統産業，淡水漁業，特産品，農業，林業）
- ④ 民俗・風土（生活様式，風習，食生活）
- ⑤ 交通（舟運，渡し，陸上交通，馬屋，石橋，木橋）
- ⑥ 信仰（神社・仏閣の由緒，水神信仰，河童信仰，祭・年中行事）
- ⑦ 先人（治水・利水貢献者，伝統産業貢献者，地域振興貢献者など）
- ⑧ 名勝・旧跡（名勝地，旧跡，観光地，天然記念物，文化財）

今回は、この項目に従って、川との関りを紹介していきます

1-1. 川と伝説・民話、名称（筑後川流域）

徐福の渡来伝説，伐株山のお話，弘法大師とエツ，大刀洗の地名のいわれ，水天宮縁起，五庄屋物語，河童の手，竜の髭など，宗教説話から現実生活に密着した教訓話に至るまで様々な伝説・民話・言伝えが遺されている。また、地域の名称のいわれ等についても調べている。

ここから見えてくる川と文化のなりたちの根源。

大分玖珠盆地のお話とは、



大分玖珠盆地の伐株山のお話とは、



1. 伐株山（きりかぶさん）の伝説

昔々、玖珠の盆地には、樹齢八万年とも言われる天にもそびえる巨大なクスノキが生えていました。

その大木があまりに大きすぎるため、周りの村々には太陽の光が当たらず、農作物が育たず、里人は暗く貧しい生活を送っていました。

困り果てた村人は、どこからか身の丈九百尺（約270メートル）もある大男のきこりを雇い、大木を切り倒してもらうことにしました。

しかし、不思議なことに、大男がまさかりで大木を切っても、次の日になると切り口が元通りになってしまうのです。

何日も同じことが繰り返され、大男もさすがに諦めてまさかりを投げ出しました。

2. ヘクソカズラの助けと結末

諦めかけていた大男の前に、どこからか一人の老人が現れました。

実はこの老人はヘクソカズラ（悪臭を放つ蔓性の植物）の精で、巨大なクスノキにバカにされていたため、大男に秘密を教えました。

「切った木くずを全て燃やしてしまえば、元には戻らない」

大男はその通りに木くずを焼きながら、ついに大楠を切り倒すことに成功しました。

切り倒された巨大な楠は、九州各地へ飛び散ったという伝承があり、周辺の地名の由来になっている。

- 久留米（くるめ）：大木が倒れる際、人々が「もうここまできくるめえ（来ないだろう）」と逃げ惑った場所
- 長崎（ながさき）：倒れた木の長い先っぽ（長崎）が落ちた場所
- 博多（はかた）：
楠の葉っぱ（葉がた）が落ちた場所
- 鳥栖（とす）：
鳥の巣（鳥栖）が落ちた場所
- 玖珠（くす）：
大楠（クス）の木があった場所

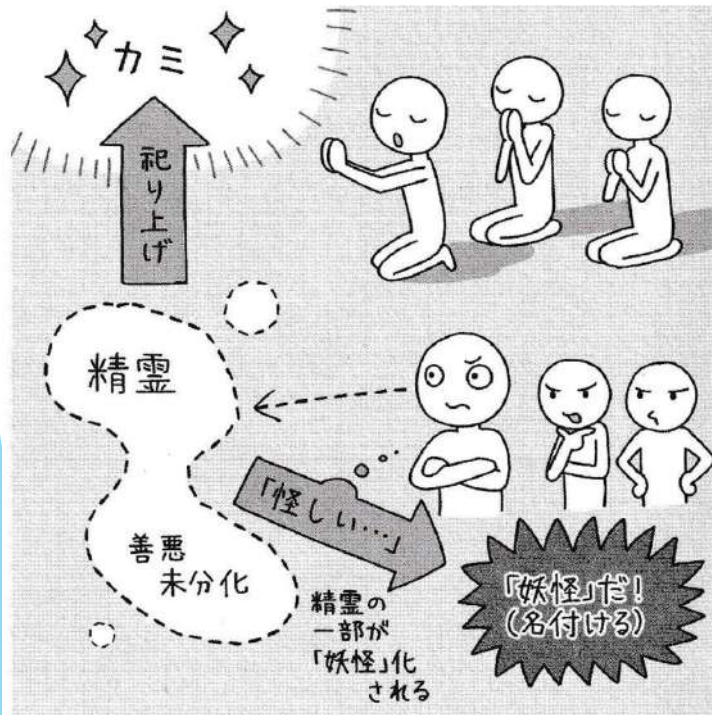


また、ここまではくるめー「久留米」、倒れた木の長い崎っぽが「長崎」、ふわりと葉っぱが落ちて形がついた「博多」、鳥の栖が落ちた所が「鳥栖」など、大木が倒れたことで九州各地の地名がついたと伝えられています。

地名の由来にも、物語性がある



河童の手 (草野町)



「昔話の民俗学入門」より

令和6年6月13日に寄贈された川太郎の手(A2024-004)を初公開します。本資料は草野町に伝来した手骨標本です。いわゆる「河童の手」と伝承されており、全国に残る河童伝説に関係するものです。川太郎の手が保管されている箱の底には「此ヲ處持する人愛敬多呪力ヲ得る」とあり、この手が所持者に不思議な力をもたらすと考えられていることを伝えます。

久留米市では、筑後川沿岸の地域を中心に河童伝説が残ります。本資料も、そうした伝説を背景に残されてきた可能性があります。

●川太郎の手

天保4年(1833)

河童の手と伝承される手骨標本で、縦6.7cm、横4.5cmです。箱書きの墨書から、所持者は河童のように、人々から愛敬を集め、呪力を得ることができた信じられたようです。

なお、鑑定の結果、これはカワウソの手であることが分かっています。



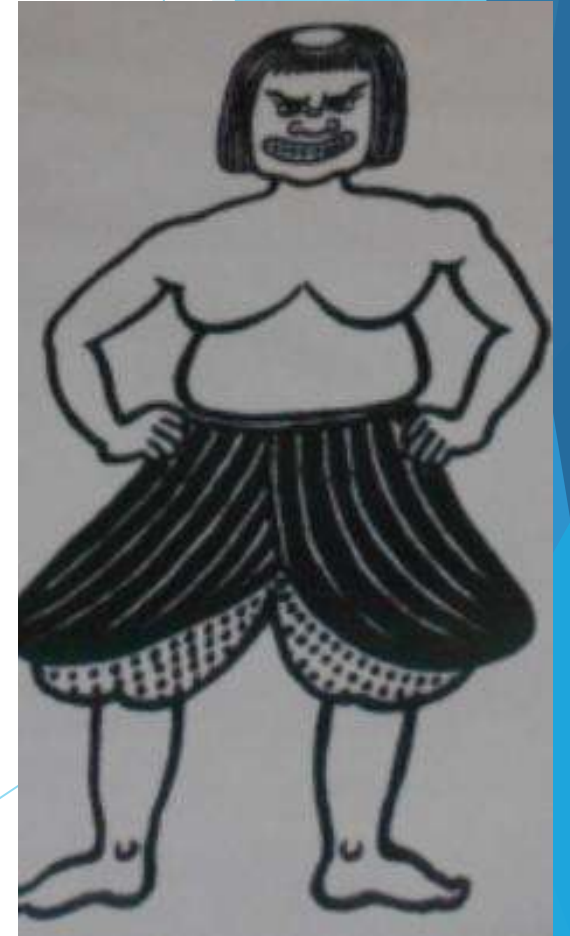
保管箱底面の墨書



河童伝説について

- 河童の由来は、大きく西日本と東日本で異なる。
- 九州や関西など西日本では、大陸から渡来された伝承をベースにしたものが多い。
- 東日本では安倍晴明の式神などがその仕事を手伝わせるために作った人形が転じたものと伝えられている。
- 北部九州で、河童の有名なところは、筑後川沿川の「田主丸の河童（九千坊河童）」。

田主丸の河童



九千坊河童（河童伝説について）

- 筑後川に棲む西日本随一の河童で、一族が九千匹もいたとされる。
- もとは熊本に棲んでいたが、その傍若無人ぶりに怒った加藤清正に追われ、人畜に悪さをしないことを条件に、久留米・有馬公から筑後川に棲むことを許された。
- 九千坊河童は有馬公に感謝し、以後、水天宮（安徳天皇を御祭神とする水の神様。久留米市京町）の御護り役として、領民を水害から守る事を誓ったとされる。

作り話でなく、史実がベースになっているような気がするが・・・こんなことも言われている。

田主丸の馬場瀬神社に安置されている九千坊と名軍師沙悟浄の木像

いまは昔、河童の先祖はパミール山地の一溪水、支那大陸の最奥、中央アジア新琵琶省タクラマカン砂漠を流れるヤルカンド川の源流に住んでいました。寒さと食糧不定のため、河童たちは二隊に分かれて大移動を開始しました。一隊は頭目獏齋坊（ばくさいぼう）に率いられて中央ヨーロッパ、ハンガリーの首都ブダペストに到着し、この地に棲息しました。頭目九千坊は、瑞穂の国日本をめざし部下をひきつれて黄河を下り黄海へ出ました。そして泳ぎついたところは九州の八代の浜です。仁徳天皇の時代、今からざっと千六百年の昔です。九千坊一族は、球磨川を安住の地と定めました。



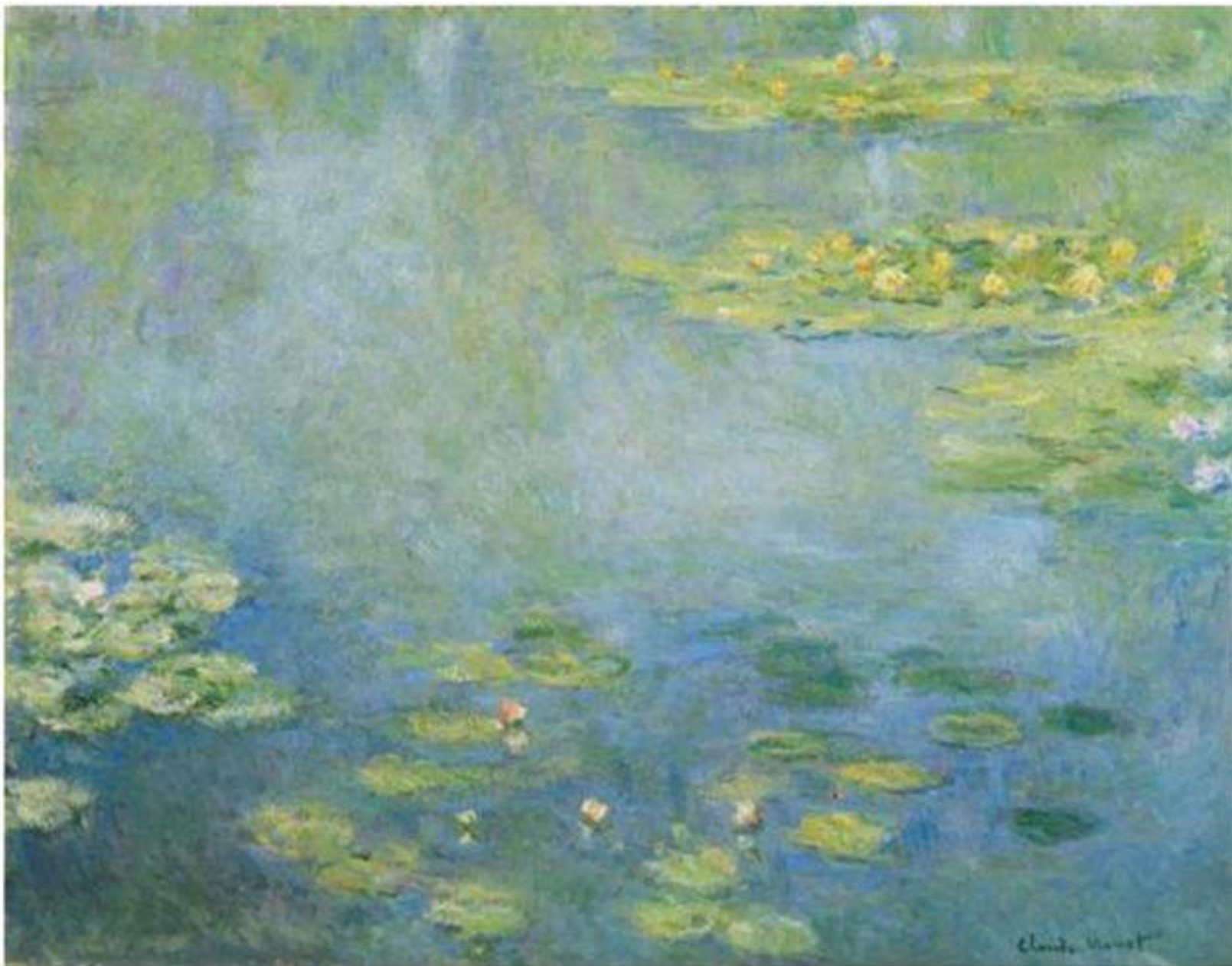
ここから見えてくる川と文化のなりたちの根源。

科学が発達していなかった時代

そこには、想像力により、物語を創り上げていく力があつた。

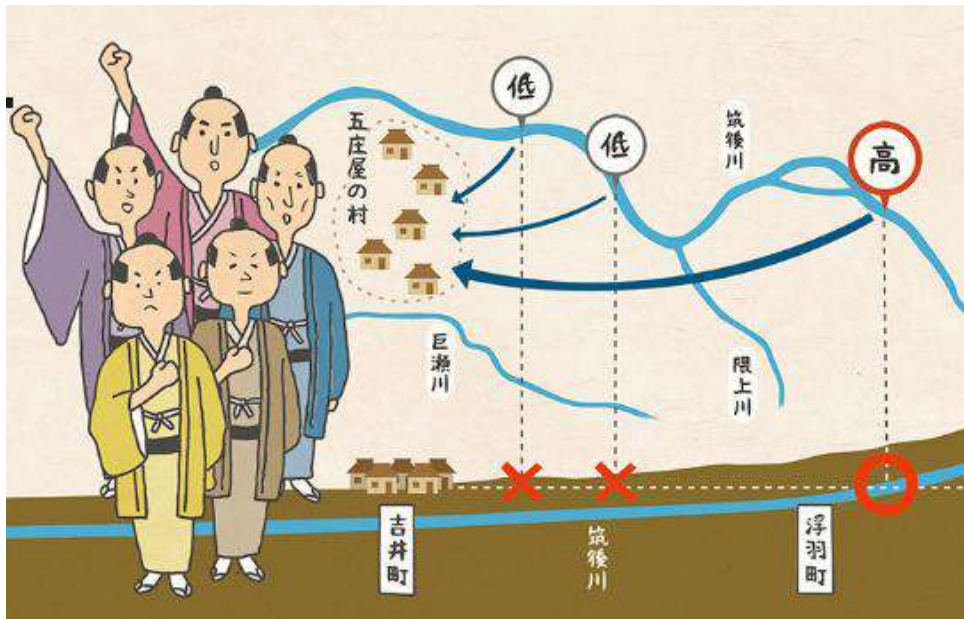
ある意味、精神性で見ると豊かな時代だったかも。

そこで、ちょっと寄り道して・・・



「睡蓮 1906」 クロード・モネ

五庄屋物語



五庄屋物語

九州一の大河「筑後川により肥沃な田園地帯ですが江戸時代初期までは水不足に悩まされていました。

その理由は筑後川より高台にあるためです。水不足に苦しむ農民のため立ち上がったのが5人の庄屋でした。庄屋たちは、私財を提供し久留米藩に負担をかけない、という約束で「かんがい用水路」の建設許可を願います。

しかし許可を得るのは簡単ではありませんでした。近隣の庄屋たちが、用水路建設が失敗したら被害を受ける、という理由で反対したからです。そのため工事に失敗した場合、5人の庄屋は処刑されるという条件で許可されました。工事現場には5人分の磔柱（はりつけばしら）が立てられたのです。

こうして1664年工事が開始されました。予想されてはいましたが、筑後川は大河のため難工事だったのです。しかし「庄屋を死なせるな」という一念で用水路は完成しました。農民総出の努力が実ったわけです。この用水路のおかげで、水不足は解消され今日まで恩恵を受けています。

史実の伝承

弘法大師伝説：エツ誕生伝説

弘法大師（空海）平安時代の高僧

日本各地を巡行し、民衆を救済した。水不足の土地で杖を突いて湧き水を出した「弘法水」や、一晩で橋を架けた伝説等数多くの伝説を残す。



遙か昔、この川の船着き場に、ひとりの旅の僧が佇んでいました。そのみすぼらしい姿は痛々しいほどです。対岸に渡りたい。でも、お金がない。そんな彼をどの船頭たちも相手にしませんでした。途方に暮れて立ち尽くしていると、ひとりの船頭が声をかけてくれました。

「どうぞ、私の船にお乗りなさい」

その親切に微笑で応えた僧は、岸辺で揺れていた葦の葉を取って川に投げたのです。すると、どういう魔法をつかったものか。水面に浮かんだ葉は、一瞬で形を変え、美しい銀色の魚に変身したのです。

驚いた船頭は、もう一度、目を凝らして確かめました。間違いありません。やはりそれは、本当の魚だったのです。

「もし、暮らしに困ったときには、この魚を獲るがよろしかろう」

と告げた僧こそ、のちの弘法大師。すなわち空海です。

かつて遣唐使として大陸に渡り、当時の国際都市・唐に学んだ空海は、あるいは彼（か）の地でエツを味わったことがあったのでしょうか。真言宗の開祖、空海。その幼い頃の呼び名は「真魚（まお）」といわれています。

大刀洗（たちあらい）の地名

南北朝時代の1359年「大原の合戦（筑後川の戦い）」にて、南朝方の武将・菊池武光が激戦の末に血のついた太刀を近くの小川で洗い、その川が赤く染まったという伝説に由来します。

地名など、歴史の伝承が行われた



筑後川の戦いとは

- ▶ 南北朝時代の正平14年（1359年）に筑後川を境にしての南朝と北朝の戦。大規模な合戦であり、南朝と北朝合わせて戦死傷者46,000人という元寇を上回る被害をもたらした。
- ▶ 南北朝時代の九州における合戦では最大。日本三大合戦と呼ばれてる。



1359(正平14)年、九州を二分する北朝勢と南朝勢の衝突が勃発します。日本三大合戦に数えられるこの戦は、筑後川を南北に挟んで対峙した前哨戦に始まり、後の大保原での決戦では、十万ともされる将兵が入り乱れて戦うという、史上稀な戦史として、後世に語り継がれています。

懐良親王と菊池武光を中心とした南朝軍40,000は、筑後川南側の湖畔に出陣。一方、少弐頼尚を中心とする北朝軍60,000は本陣を大保原に敷きます。こうして、両軍合わせて100,000の大軍が、九州最大の河川である筑後川を挟んで対峙しました。

かねよししんのう：後醍醐天皇の息子



1-2. 川と生業（筑後川）

川の流れ、水

- 河口から溪流に至るまで，各地で地域に根ざした様々な方法で漁が営まれていた
- 清流を利用した酒造りも盛んに営まれてきた
- 湧き水を利用したスイゼンジノリの採取

森林資源と水運

- 上流域の林業と日田の下駄・大川の家具

下流域の低平地農業とアオ取水やクリーク用

スイゼンジノリ

- 江戸時代に熊本の水前寺付近の江津湖で発見されたことに由来。細川藩から幕府への献上品として珍重された
- 国の天然記念物だが、今では日本で唯一、湧水を源とする福岡県・朝倉市(旧・甘木市)の黄金川にのみ自生。
- 原始的藻類・川のりで「川茸」ともいう。(商品: スイゼンジノリ、原料: 川茸)
- 約250年前、黄金川の流れの中に青紫色の苔が発見されて、これを秋月黒田藩が幕府への献上品として長年送ることにより、全国に高級食材として珍重され、藩の財政を支えたことから、古くは東川と呼ばれた川が「黄金川」と名前を変えるようになった。



水をめぐる知恵

領土の境（御境川：矢部川）

- 有馬藩、柳川藩の境（筑後川、矢部川、沖の端川）
- 回水路システム

水争いを回避するための知恵

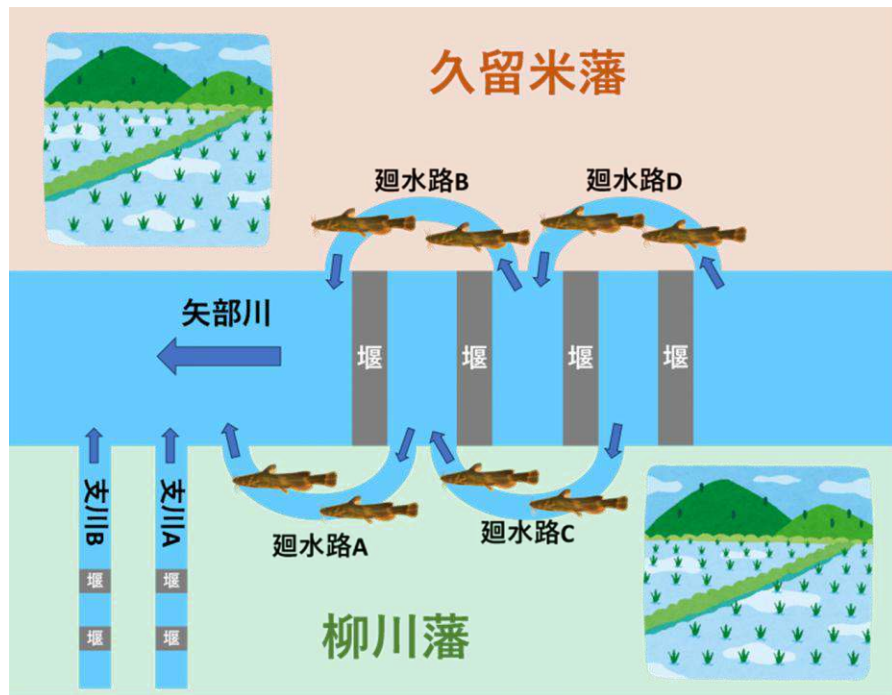
自分の領土に降った雨の水は自分の領地へ



矢部川の廻水路

矢部川は、実は2つの川

- ▶ 久留米藩を流れる川
- ▶ 柳川藩を流れる川



(有馬領)久留米藩

花巡堰 はなめぐりげせき
取水口

馬渡堰 まわたりがせき
取水口

黒木堰 くろぎせき
取水口

惣河内堰 そうこうちげせき
取水口

柳川藩 (立花領)

三ヶ名堰 さんがみょうげせき
取水口

込野堰 こみのげせき
取水口

唐ノ瀬堰 とうのげせき
取水口

久留米藩堰
柳川藩堰
新年代は幕政時代における築堰・改築年

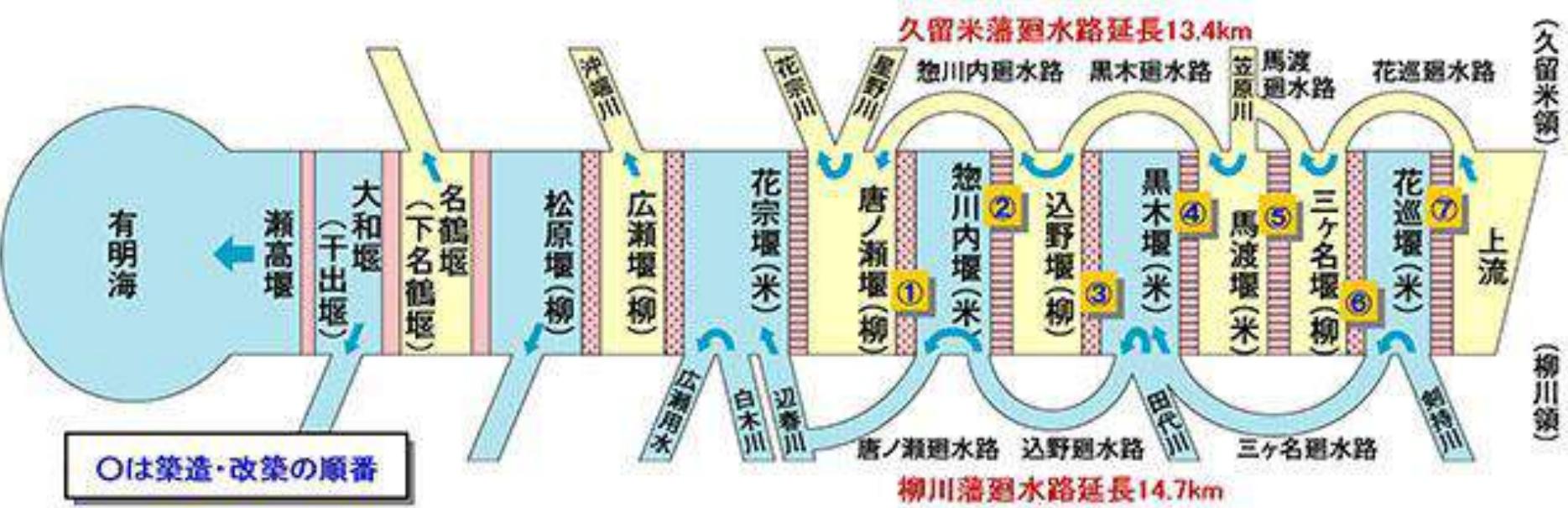
矢部川の廻水路と主要堰



写真一 2 込野堰



写真一 6 花巡廻水路 (落水部石張り)



矢部川と八女手漉き和紙

- ▶ 400年の歴史: 文禄4年(1595年)頃、日蓮宗の僧・日源上人がこの地を訪れた際に、越前国(現福井県)の技術を伝えたのが始まりとされている。
- ▶ 最盛期と現在: 最盛期には矢部川沿いに200戸(一説には1,700戸とも)を超える紙すき工房があったが、現在は7~8件(または9件)程度に減少している。
- ▶ 矢部川の原材料と水で作られる八女和紙は、非常に丈夫で「引き」や「腰」が強く、版画家の棟方志功も愛したといわれている。

矢部川の清流が源 400年の歴史を伝える 八女手漉き和紙

紙の歴史は古く後漢の和帝の元興元年(105)蔡倫によって発明。西暦前3000年頃にはエジプト人によってパピルスを用いた紙が作られた。

インドでは古くから貝葉(バイヨウ)が、中央アジアでは樺皮(かばかわ)が書写に使用された。

日本には西暦610年(推古天皇の18年)、朝鮮高麗の僧・曇徴によって、その技法が伝承され、これが日本の製紙起源となっている。

1587年(天正15年)豊臣秀吉によって九州全土が掌握され、100年にわたって続いた戦乱の時代は、終わりを告げる。

室町時代天文の頃、全国行脚の途中八女に立ちよった、日蓮宗の僧・日源(真柄重良左衛門の三男、真柄四郎太景元、後に出家)は矢部川の清流や、和紙の材料になる楮・三椏が自生している環境を見て、手漉きに適地であることを考え、故郷の紙漉の技術をここへ移し、住民の興望を適えさせねばならないと思い、はるばる越後国(現・福井県)から兄・直基の三男、新左衛門・新右衛門・新之丞の三甥を伴い八女に住む。姓も真柄を改め「矢箇部」主君立花氏から名字帯刀を許され、矢部川の「矢」と部「箇部」と名乗り、抄紙の業を創め村人に伝授した。文禄4年(1595年)時の筑後柳河の領主、立花親成公の間に達し御用紙を命じられる。

和紙の三大原料は楮・三椏・雁皮であるが、八女手漉き和紙は楮を原料として作られた。



日源上人の銅像と碑(福王寺境内)



楮の木の皮を煮て、表面の余分な成分を取り除く

楮の繊維は長いのが、九州の温暖な気候で育った楮は、より繊維が長く丈夫な紙ができる。楮はクワ科の植物で成長が早く、栽培が容易で1年で3m余りになる。

収穫は繊維の質が安定している冬場に行う。八女では楮のことを「かこ」と呼んでいる。日源の手漉和紙に対する熱意は、矢部川沿岸に2千数百戸の紙漉戸数を生み肥前・肥後・筑前・豊前と九州各地に移り、手漉和紙の各を成すことに至った。

日頃生活の中で使っている紙には「洋紙」と「和紙」がある。新聞紙・印刷用紙・筆記用紙など木材を原料に機械で長い巻取り紙を作る洋紙。

1300年程前の奈良時代に伝わった手漉和紙は字を書いたり、古くから人々の暮らしや道具などに使われてきた。住まいには障子や襖などに使われ、今でも紙衣(紙の着物)や紙布(紙を糸にして織ったもの)などに使われている。

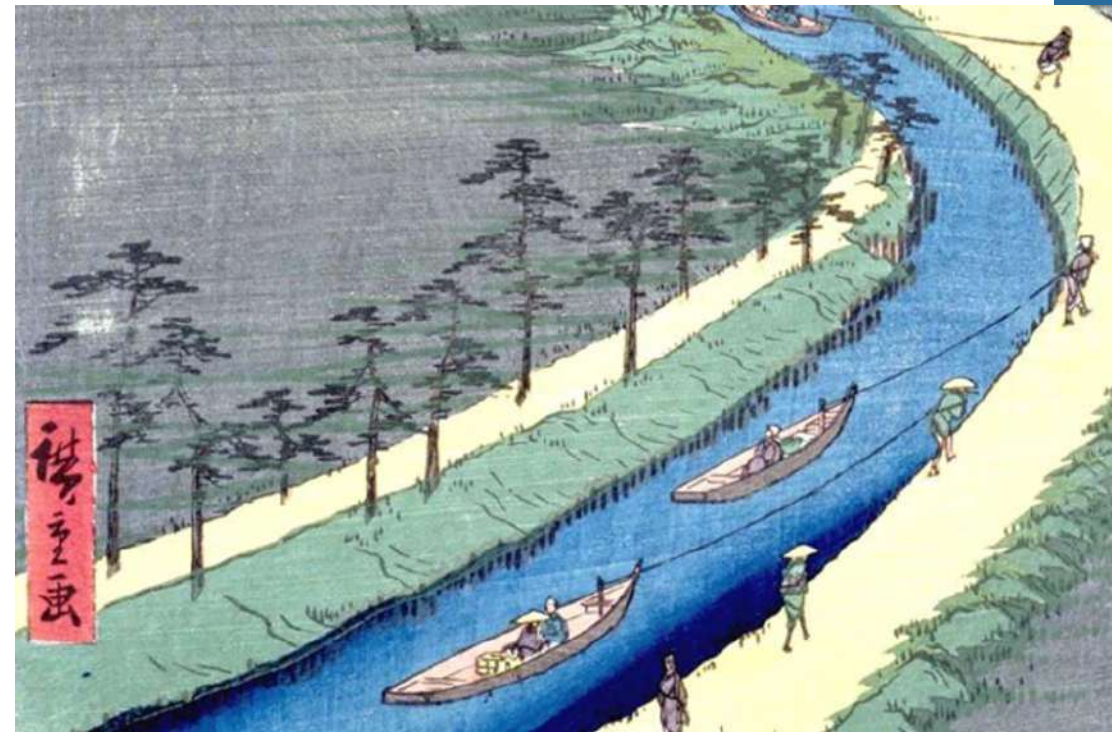
和紙には、決して華やかではないが素朴で優しい風合と温かさがあり、日本を象徴する文化を感じさせてくれる。(大宅和弘)

1-3. 川と交通

川は「道」だった

- ▶ 川の舟運は、鉄道や自動車が発達する以前、江戸時代から明治時代にかけて、川や運河を利用して人や荷物を効率的に運ぶ物流システム。
- ▶ 川の力を利用した輸送は、馬や陸路に比べて一度に大量のものを運ぶことができるため、特産品や年貢米、肥料の運搬に不可欠な役割を果たしていた。

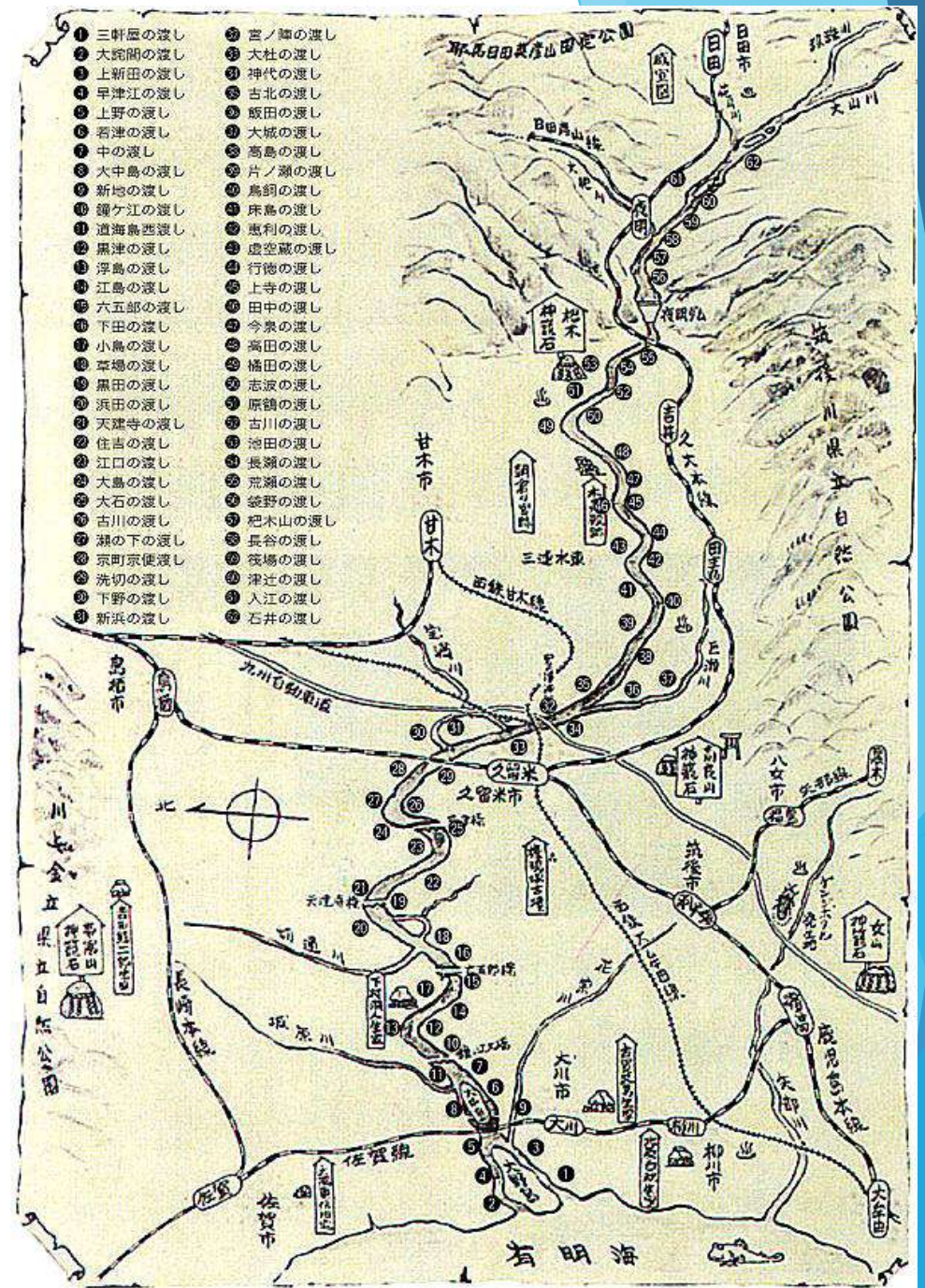
- 上流から下流へは川の流れ（水力）を利用し、下流から上流（遡行）へは帆を張ったり、人や馬が岸からロープで船を引く「曳き船（ひきふね）」で移動しました。
- 岸から綱で引く作業は重労働で、1日で済む下りに対し、上りは3～8日かかることもあった。しかし、高賃金と3食の白米が保証されていたそうです。



筑後川（渡し） 16世紀～

- 筑後川は、肥前国・筑前国、筑後国との国境線であり、軍事境界線として国防上の問題により架橋できなかつた。しかし、両藩の人々は生活上の必要性や神社仏閣への参詣などのため川を渡る必要があつた。
- 渡しは、生活上の重要な輸送手段として、古川・神代・宮ノ陣・大石（豆津）などの旧藩内三大渡しを始め、多くの渡しが行われていた。
- 最盛期には62カ所もの渡し場があつたが、各地で橋が架けられるようになり、平成6（1994）年に下田の渡しを最後にすべてが役目を終えた。

筑後川の渡し



筑後川（筏ながし） 18世紀～

- 陸上交通の不便な時代に水運は最も身近な交通機関であった。このため、舟運は、水上交通及び大規模な物資運搬を目的とした交通手段として利用されていた。
- 筏流しは、江戸時代から明治、大正にかけて、日田の木材を筏に組んで、木工の町現在の大川市や久留米市等に運んでいた。さらに大正時代には製材したものを舟で運搬していた。これにより、木材の集積地であった大川市で木工業が発達した。昭和29（1954）年に完成した夜明ダムにより、陸上交通に切り換えられた。

筑後川の筏流し



いかだ流し（夜明）



いかだ流し（荒瀬）

新しい舟運

筑後川小森野床固めの舟通し施設（久留米閘門）の改修

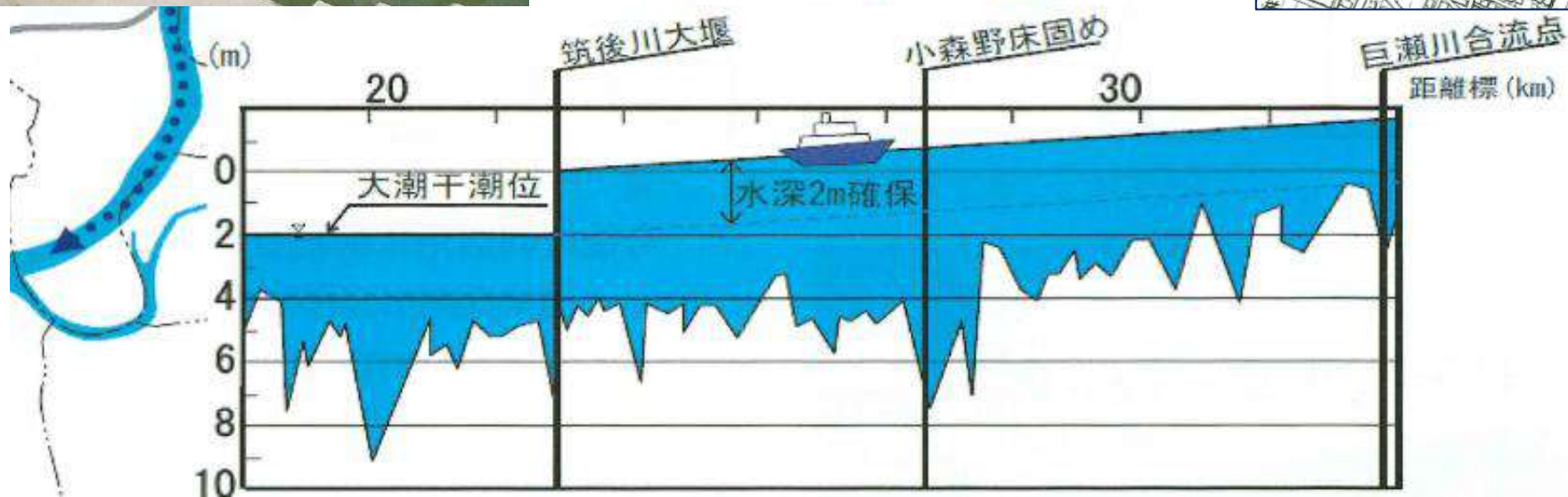
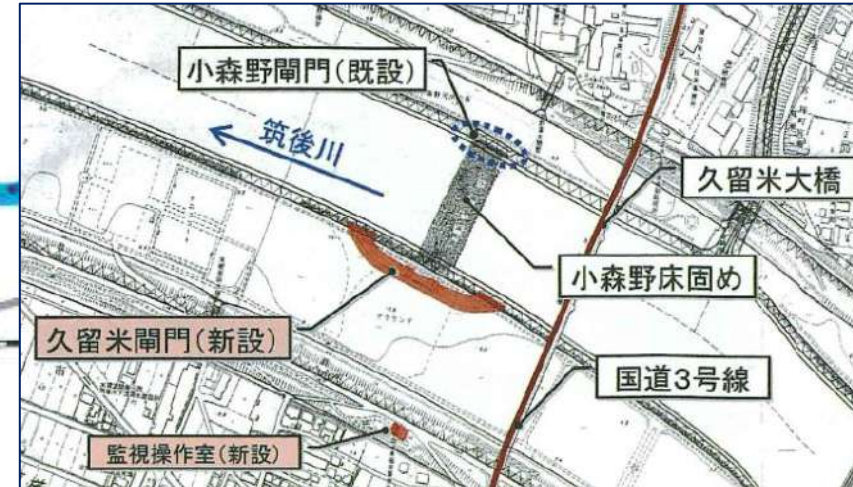
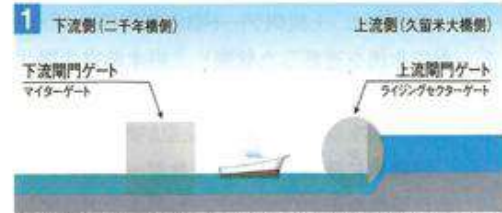




写真-2 施設全体写真

下流から上流へ向かう場合



下流開門ゲート(マイターゲート)を開いた状態、上流開門ゲート(ライジングセクターゲート)を立て起こした状態で、船が開門の中に入航し待機します。

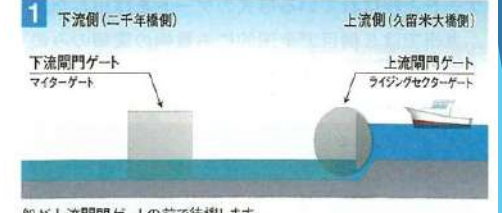


下流開門ゲートを閉じて開門を充水し、開門と上流側の水面の高さを合わせます。(開門の水面の高さを上げます)

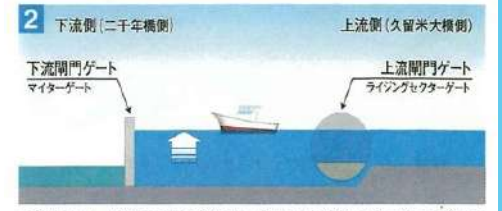


上流開門ゲートを寝かせ船が上流側に出航します。

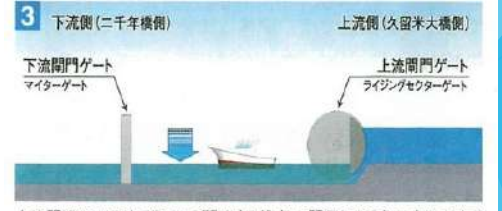
上流から下流へ向かう場合



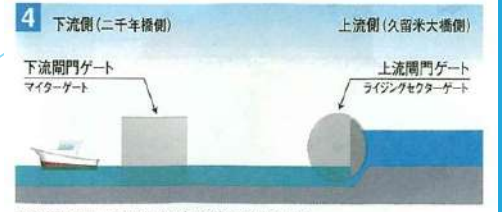
船が上流開門ゲートの前で待機します。



下流開門ゲートを閉じて開門を充水し、開門と上流側の水面の高さを合わせます。次に上流開門ゲートを寝かせて、船が開門の中に入航し、待機します。



上流開門ゲートを立て起こして開門内を排水し、開門と下流側の水面の高さを合わせます。(開門の水面の高さを下げます)



下流開門ゲートを開き、船が下流側に出航します。

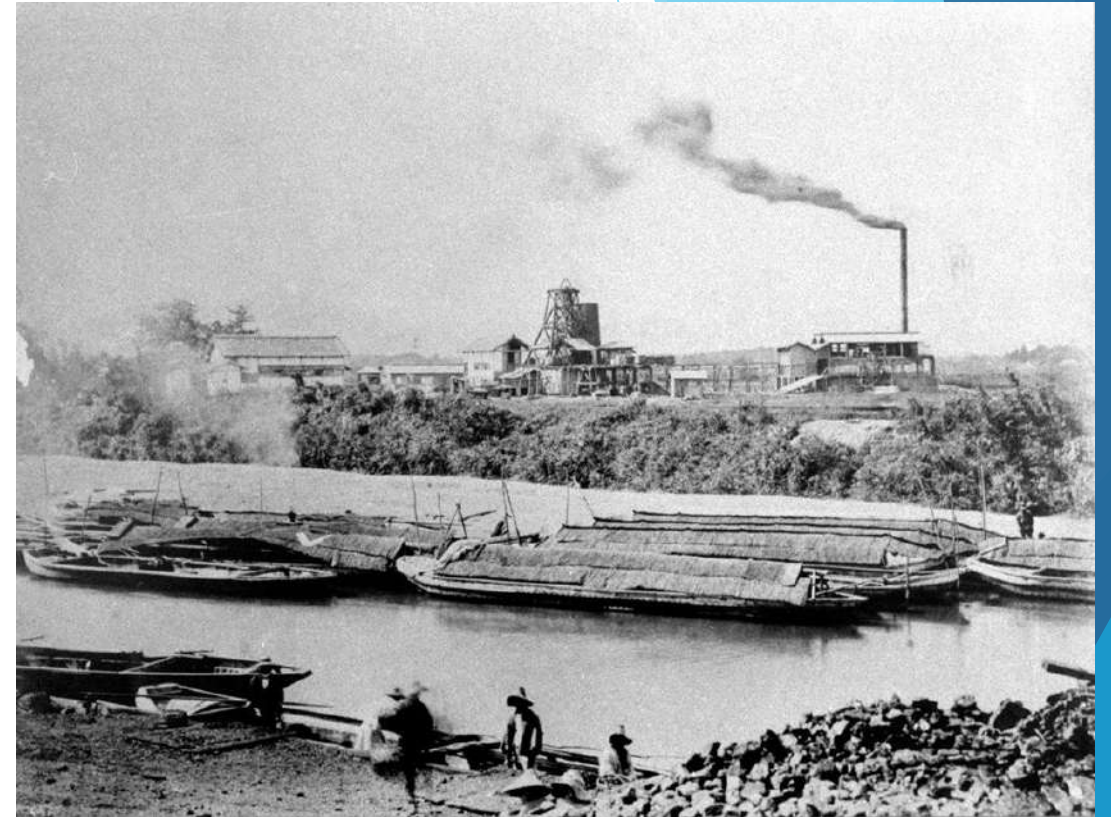
遠賀川（川ひらた） 16世紀以前

- 朱鳥元（686）年、嘉麻（かま）郡碓井（うすい）郷の貢物は遠賀川を下って芦屋で積み替えられ、京都の東大寺に納入された。このとき使われた川舟が川ひらたである。
- 遠賀川や堀川の改修は流域の石高を増加させたばかりでなく、船で物資を運ぶ舟運を発展させた。
- 堀川では年貢米、石炭、蠟燭の原料であるハゼの実や材木が運ばれ天保13（1842）年には通船数が9,648隻を数えた
- 遠賀川では石炭はもちろんのこと、伊万里焼も運ばれ芦屋で中継され各地に運ばれた。
- 舟運には水深の浅い遠賀川に合わせて川ひらたという底の浅い船が使われた。この船は「五平太船」とも呼ばれていた。その由来は、藩主の用船である「ひらた」に敬意を表す意味で御の字をつけたことに始まる

遠賀川（川ひらた）



川舩（木屋瀬天神裏の登り舟）



出典：『筑豊石炭鋳業要覧』

1-4. 川と信仰（筑後川）

- ① 水神を祀る水天宮の神社に付会したものの
- ② 供物を吊るした笹竹を川中に組んで、水神を祀るもの
- ③ 川の流に供物を捧げ、水神を祀るもの
- ④ 水神祭祀は忘れられ、寄合って飲食するもの



写真一 1 笹竹を組んだ水神

信仰の対象としての川（ひろちさや）

- ▶ 我が国では、「川」そのものを信仰形態とすることがなかった。唯一「滝」が神が宿る信仰の対象となる。
- ▶ 一方、インドのガンジス川は、天の川とつながっていると考え、亡くなった人をガンジス川に流すのはそのため。また、川の合流点に神が宿ると考えられている。
- ▶ 「橋」は、日本では、もともとは、流れ橋だった。神様は、橋を憎んでいる。橋をつくるときは、人柱が必要だった。

川が、人間との関りで生み出すもの (物理的側面＋精神的側面)

① 境界、境としての「川」

川は境を生み出す

▶ 神の領域と人の領域の境としての川

出雲の神社、久保田町の香椎神社

橋は、その二つの領域を結ぶ存在

また、橋は「端」。境界を挟む連絡路

熊野大社（松江）



与賀神社（佐賀市辻の堂）、香椎神社（佐賀市久保田町）

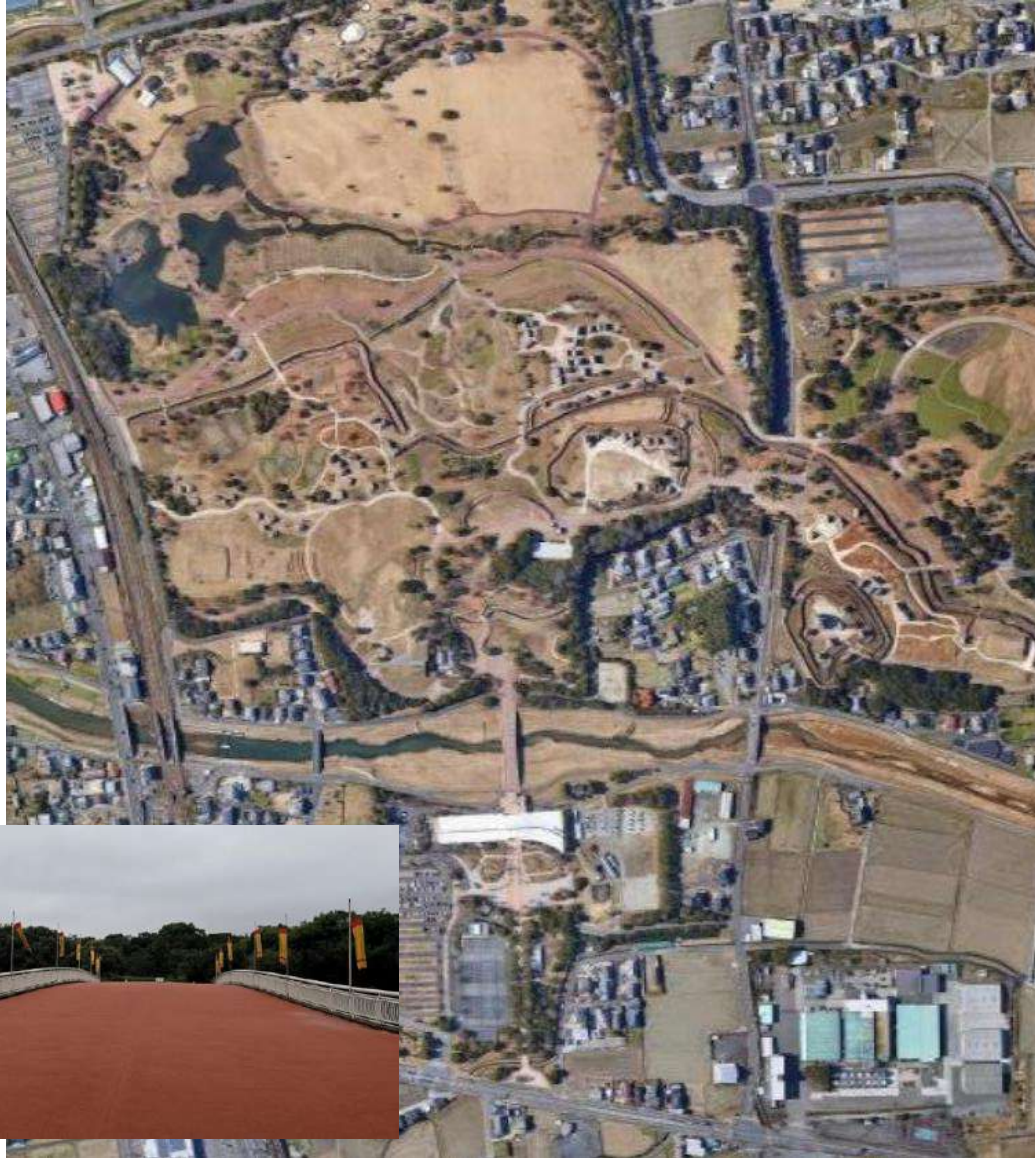


與賀神社（与賀神社）
欽明天皇の代の創始といわれる古社で、御祭神は竜宮城のお姫様といわれる神武天皇の御祖母である豊玉姫命。室町時代後期の建立である楼門が特に有名。



有明海の干拓で拡大していった久保田郷の産土神で、近郷の信仰を集め、旧邑主の崇敬も厚く、免田の寄進、社殿の造営など実施した。

吉野ヶ里歴史公園の「橋」



田手川に架かる「天の浮き橋」
現在と過去（弥生時代）を結ぶ橋

「天の浮橋」は、日本神話の国生み神話において、イザナギ・イザナミの二神が立ち、天沼矛（あめのぬぼこ）で海原をかき回してオノゴロ島を造ったとされる、天上と地上の間に架かる橋。

川が、人間との関りで生み出すもの（物理的側面）

境界、境としての「川」

川は境を生み出す

そして、橋はその二つの領域を結ぶ存在

橋は、「端」

それぞれの領域の端を繋ぐ連絡路

川が、人間との関りで生み出すもの (物理的側面＋精神的側面)

川にかかっている橋というのは、古くから現世と異界を隔てる境界と考えられてきた。

日本には古来より、橋に守護神を祀る風習があり、これは妖怪などが境界を越えて、人間の世界に入ってきてこないようにする為だったという。

「橋姫」：宇治川の橋のように、古くからある大きな橋では、外敵の侵入を防ぐ為に守護神として橋姫が祀られている。



竜閑斎画『狂歌百物語』より「橋姫」

『千と千尋の神隠し』の「川の神様」は、主に千尋を助ける少年「ハク(ニギハヤミコハクヌシ)」を指し、かつて千尋が溺れた「コハク川」の神様です。また、物語序盤に泥汚れで異臭を放ち、「よきかな」と言って去ったのは「名のある河の主」という別の神様です



諸富の水神

- ▶ 春の初めに行われる「川神祭り」は、水への感謝と子ども達が水難を免れるための祭りで、ヒャーランさんとも呼ばれ水神への願いが込められている。

ひゃあらんとは、佐賀弁で川に入らない(ひゃあらん)という意味で、一般的に子供たちが川で水難事故に会わない様にとお祈りをするお祭りです。



川にお祈りする様子



神様にお供えする舟(円座)

諸富の水神

大中島の弁財天

- ▶ 昔大洪水のとき、中川副村中津から流れてきたもので、中津側と大中島において返す返さぬの争いがあったが、藩公がこれは因縁あって大中島に流れついたのだから大中島に祀るべきと裁定をくださったといわれる。



水神

- ▶ **水神の一つに龍を祀る龍神がある。雨乞いの神として祀っており、日本各地に八大龍王に関する神社や祠がある。**

八大龍王は、水や雨を司る神様であり、仏教の守護神(八部衆)として、雨乞い、海難除け、豊漁など、水に関わるご利益で知られ、近年では勝負事や成功の神としても信仰されています。法華経に登場する八体の龍神(難陀、跋難陀など)の総称で、仏法を守護する存在です。

昔から雨乞いの神様として祀られ、日本各地に八大龍王に関する神社や祠がある



治水神社

江戸時代の中頃、徳川幕府は、木曾三川の水害で悩む濃尾平野西南部の住民を救うため、薩摩藩にお手伝い普請を命じました。薩摩藩士らは、経験したことのない水の流れに苦しみながら、この地方の住民のため、多大の犠牲を払い、万難を排して工事を見事完成させました。

この工事の総責任者平田靱負大人は、幕府の検分が終わった直後の宝暦5年(1755)、工事の完成を見届け、美濃大牧の役館で命終されたのです。

その後、平田大人を治水の神と讃える地元の人々の報恩感謝の熱い思いにより、昭和13年(1938)現在の地に、平田靱負大人を御祭神とする治水神社が創建されました。治水神社は、治水に尽力された薩摩藩士の功績を讃え、平田靱負大人の遺徳を偲び、犠牲となった多くの藩士達を慰霊しています。

川の神様（水神）を祭るのでなく、治水事業に貢献した人々を神として祭る



川と祭

▶ 田川の神幸祭

田川の彦山川沿いの風治八幡宮でおこなわれる川渡り神幸祭は、山車が川を渡って御旅所へ渡り、本宮に還幸する祭り。

疫病を退治するよう風治八幡宮に祈願したことによる。より多くの水しぶきをあげることで、川の中の悪霊を洗い流すことができるとして、水合戦が行われる。



境としての「川」

川は境を生み出す：川の向こう側

2025年度後期の朝ドラ『ばけばけ』で、「川向う」は松江の大橋川を挟んだ橋南地区の貧しい地域を指し、ヒロイン・トキや、残された遊女のサワ、なみの生き様を描く重要な舞台となっている。



この世はうらめしい。けど、すばらしい。

連続テレビ小説
ばけばけ

川と橋

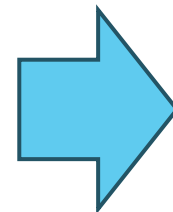
橋は端

東海道53次

起点：日本橋（江戸）

終点：三条大橋（京）

端と端（橋と橋）を結ぶものとしての道



1-5. 歌にみる筑後川への想い

- 筑後川本川をはじめ、筑後川流域の川は、地域のシンボルや生活の支えとして人々の心に位置付けられている。これらは、校歌や詩歌あるいは古くは民謡や謡曲等として歌い継がれてきている。
- 甘木市市歌では、地域の稔りの恩恵を筑後川に歌いこんでいる。また、北野音頭では、宝満山・耳納山の対比に筑後川の清き流れを歌詞にしている。

2. 佐賀平野と文化

世界の〇〇の文化

大きく分けて、世界には、取り巻く環境と共存を図るため、次のような文化があるといわれている。

- ◆砂漠の文化（アラブ諸国、・・・）
- ◆草原の文化（モンゴル、・・・）
- ◆海の文化（北欧、・・・）
- ◆そして、日本などの「川の文化」

川と共存することで、「川の文化」が生まれる。かつては、そのことで、川の神様も生まれた。





川の文化

恵みをもたらし、災害等の恐怖をもたらす「川」との共存で培われてきた「川の文化」。

その「川の文化」をより深めていくために必要なことは・・・あらためて、川への恐怖以上に、

感謝の気持ちがあり、これを育むことが、川の文化の基本

佐賀という地域文化、 川とクリークを中心とする川の文化

有明海、低平地佐賀平野から、クリークという「水の文化」（水を排除しない考え）が生まれた。

佐賀のクリークと水田は、「水の平野」と呼ばれる。

佐賀という地域文化、 川とクリーク、独特の川の文化

かつての治水技術は、「紀州流」と「関東流」があった。
歴史的には、「関東流」⇒「紀州流」になり、近年また、
「関東流」的な発想の治水に戻りつつあり、さらに総合
治水から流域治水の流れ。

関東流：河道の蛇行機能の温存と霞堤等を整備
紀州流：蛇行機能の廃止と霞堤等を連続堤化

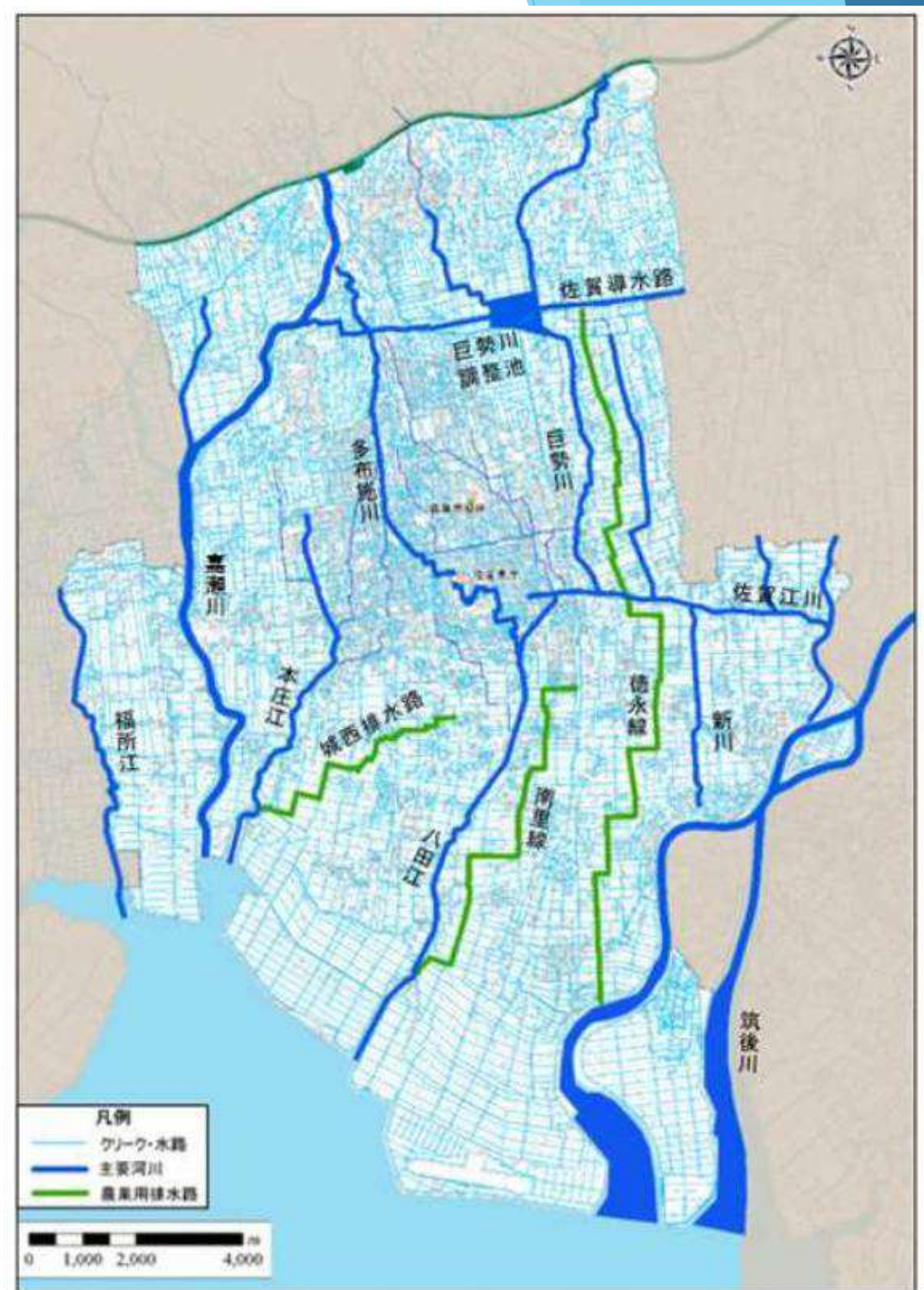
佐賀平野の治水は、古くから流域治水の発想を行ってきた
「**水の平野**」と呼ばれるクリーク式で対処する
全国でも珍しい地域である。

佐賀のクリーク

水を「制する」のではなく「編む」技術

- 佐賀のクリークは、数百年かけて編み上げられた人工の水システム。
- 背景には、有明海の干満差と低平地という厳しい自然条件がある。
- 中世の条里制に伴うクリーク開発が最初といわれる。
- 鍋島直茂以降の藩政で、大規模な治水・干拓事業が進められた中で整備が進む。防御用の堀としても機能。
- 現在、クリーク総延長は約2,000kmに及ぶ。

佐賀のクリークについて



佐賀市の水路網図

佐賀のクリーク（宮地米蔵氏論文より）

- ▶ 佐賀平野の背後の山は浅く、十分な集水面積を持っていないこと。
- ▶ 山々はマサとよばれる花崗岩でできているため、保水力がない。
- ▶ 佐賀平野は、干拓で沖へ沖へと広がっていく。
- ▶ そのため「もたせ」として水を抱える容器が必要になった。これが、クリーク。ちなみに、クリークを水路と呼ばないのは、人工的に作られたものでありながら、自然発生的な水路だからであるという。

佐賀のクリーク（宮地米蔵氏論文より）

- ▶ 「もたせ」として水を抱える容器が、ため池でなくクリークという水路になったのは、ため池では、排水路としての役割を持ってないため。
- ▶ クリークは、導水路であり、貯水路であり、排水路である。
- ▶ 特に、有明海の満潮時には、貯水路としての役割が求められた。

佐賀のクリーク (宮地米蔵氏論文より)

佐賀平野のシステム

- ▶ **利水**は、天井川である嘉瀬川と、江湖を通じて下流からくるアオを利用する。
- ▶ **排水**は、干潮を利用して、江湖、筑後川に落とす。
- ▶ この仕組みを、細かく整備して隅々までいきわたるように工夫したのが成富兵庫である。
- ▶ この水管理の仕組みを、堰や樋門を利用して作り上げたのが「クリーク共同体」。

佐賀のクリーク 水を「制する」のではなく「編む」技術

- クリークは、「川の代用品」ではなく、**平野全体**をひとつの水田装置に変える仕組みである。
- 有明海の大きな干満差を読みながら水位を管理する**潮と闘わず調整する技術**である
- 水を共有する「**水の共同体文化**」を形成してきた
- **農業用水の確保と排水機能を兼ね備えた施設**

防御用の堀として



クリークの川俊え(昭和30年代)

佐賀平野の風物詩の一つ、川俊えはクリークの貯留能力を確保するためにかかせない作業で、関係する村々の石高に応じて出役された。泥土は肥目天で水田へ客土された。



姉川城跡

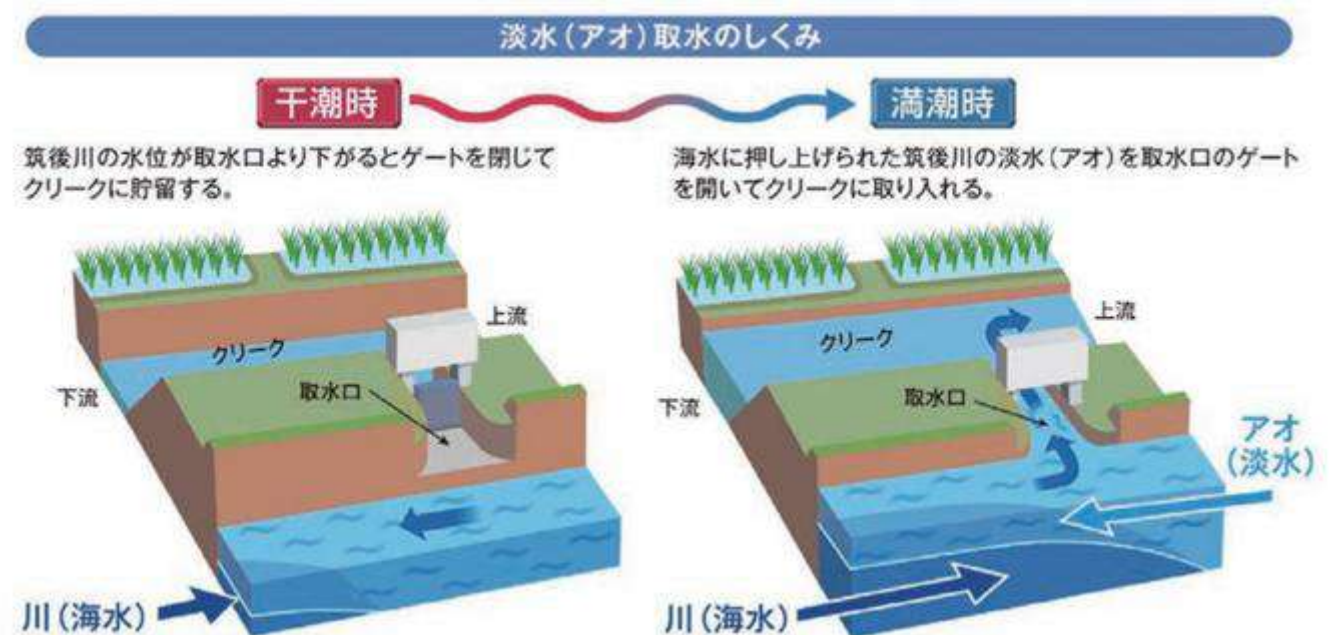
姉川城は、南北朝時代、南朝方の菊池武安により築城された。佐賀平野に残るクリーク地帯に築かれた城跡の中で、最大級の規模を誇る城館跡。周囲に環濠を巡らせた、中世の農村集落と、領主や武士の発生と成立過程を見ることができる貴重な遺跡国の史跡。

佐賀のクリーク（宮地米蔵氏論文より）

- ▶ 河川（筑後川、嘉瀬川など）、江湖（えご）、有明海を結びつけるクリークが、広大な佐賀平野の灌漑を担っている。
- ▶ 佐賀平野は、川の上流からの流れによる水と、上げ潮に乗てやってくるアオを汲み上げる江湖の上下流の2つの水源がある。

佐賀のクリーク

- ▶ **アオ取水（あおしゅすい）**とは、有明海の大きな干満差を利用して、海面より上に押し上げられた比重の軽い川の水（淡水「アオ」）を、クリークと呼ばれる水路から農業用水として取水する、筑後川下流域・佐賀平野独特の伝統的な方法



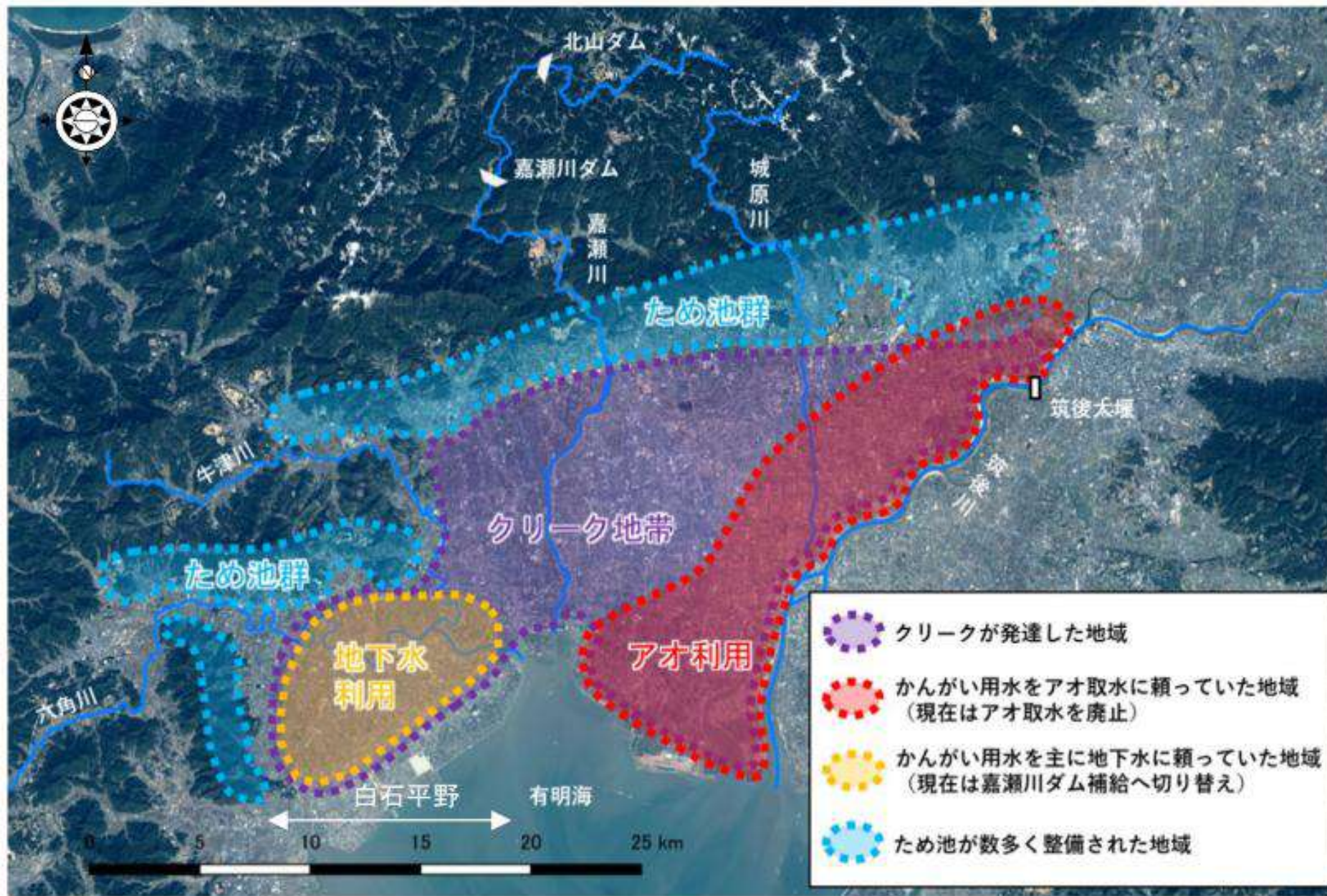


図 1.11.20 佐賀平野における水利用

佐賀クリークネットの活動

佐賀県

水辺で過ごす、佐賀の春

お堀に浮かぶこたつに入り、桜並木を眺める。

堀日和

3/20 (金・祝) - 3/29 (日)

3/20 (金・祝) 10時~16時
3/29 (日) 10時~16時

佐賀県 県土企画課 TEL: 0952-25-7538
株式会社 月極企画研究所 TEL: 0952-20-1143 / F: 0952-1195
株式会社 アップ株式会社 / 株式会社 A&C コンクリート佐賀支社 / ながりネット

ご利用には、下記公式サイトから事前予約(先着)が必要です。
雨天時は中止となる場合があります。

お問い合せ先
公式InstagramのDMまたは公式LINE
公式電話番号: 0952-20-1143 / F: 0952-1195

公式サイト: <https://saga-ohori.jp>

堀日和は、空と水のあいだに生まれました。

佐賀城は、佐賀平野の低い土地に建てられた平城です。城のまわりには、幅80m前後もある大きなお堀がつくられました。このお堀は今も昔の姿を残しており、昭和の時代にはボート遊びが楽しめるなど、人々に親しまれてきました。美しい自然と調和した景色を生み出すと同時に、現在では、大雨の時に調整池として、まちを守る防災の役割も果たしています。

水面からの目線で桜を眺める、ここでしか味わえない特別な春の時間を体感ください。



イメージです

水上こたつ体験

公式サイトから事前予約(先着)が必要です
飲食物の持ち込み可 雨天時は中止となる場合があります

(1日の体験枠) ①10時~②11時~③12時~④13時~⑤14時~⑥15時~
(1枠の体験時間) 50分間 (受付開始) 体験開始10分前より(定員)1組最大4名様まで
(参加料) 大人 1,000円(お茶・お菓子付き)、中学生~大学生 500円(お菓子付き) ※席利用のみは無料



おすすめ! 水辺の散歩コース

- コース①** 佐賀城公園北堀から松原川まで歩く水辺の散歩道は約1.7km、徒歩でおよそ25分。水辺をめぐりながら、気楽に回遊できる散歩コースです。
- コース②** 松原川沿いでは、季節ごとに変わる豊かな自然がつくる景色が楽しめます。水の中をゆっくり泳ぐ鯉の姿も見られ、植物と生きものがつくる穏やかな風景の中で、のんびりと散歩を楽しめます。

歩こう。佐賀県。 SAGA TOGO

佐賀県公式ウォーキングアプリのダウンロードはコチラ

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

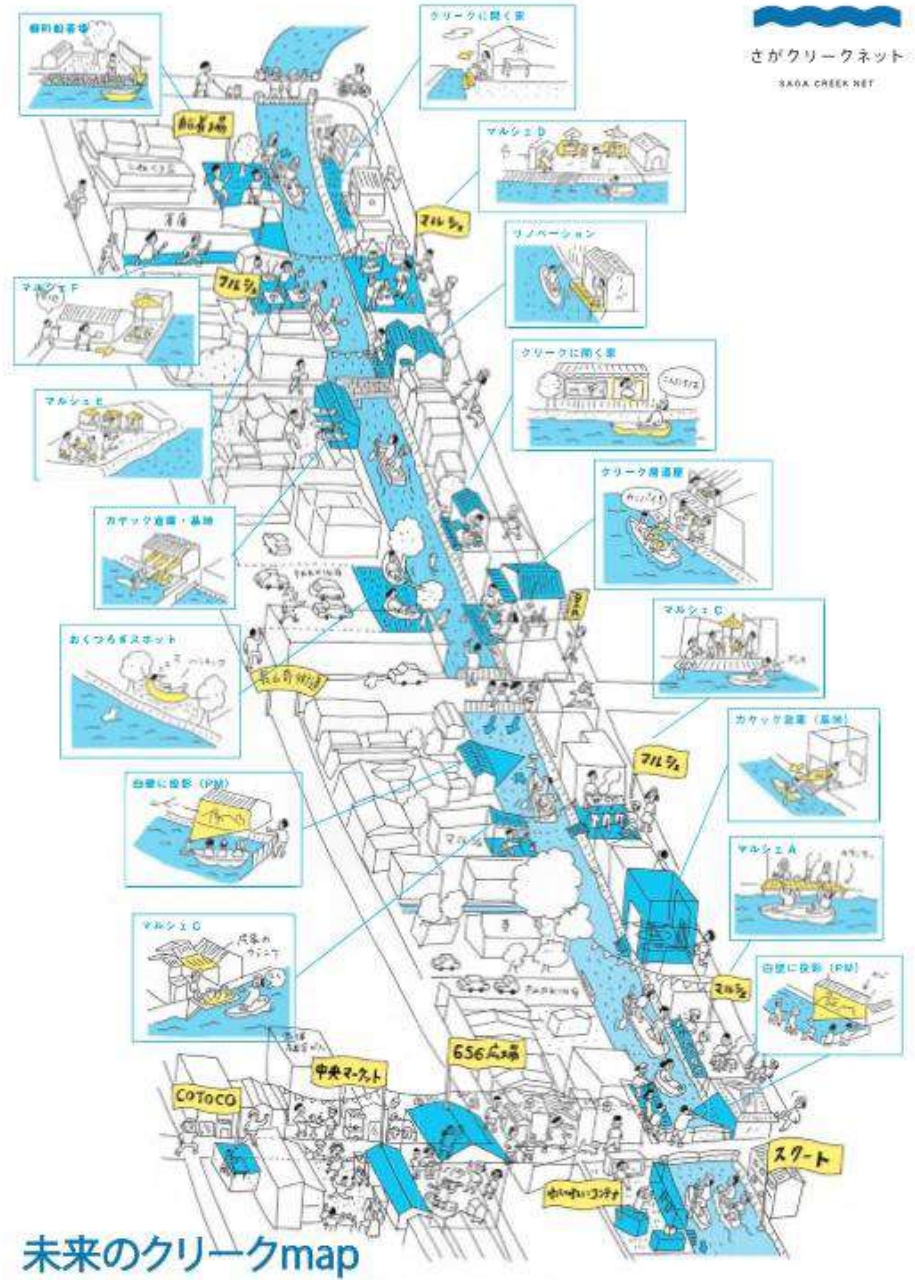
Lunch Spots 会場周辺で、お堀に立ち寄れるお店の一部をご紹介します!

- ホテルニューオータニ佐賀** (テイクアウト可) 創業50周年。日本でも唯一、城牆に囲まれたホテル。館内には複数のレストランがあり、ランチにも利用できます。
- 茶房ほりんぱた** 穏やかな落ち着いた雰囲気のカフェ。散歩の途中に立ち寄って、お茶や甘味でゆっくり過ごせます。
- STOOL(スツール)** 県庁新館 地下1階にあるカフェ。カレーや定食、スイーツなど、気分に合わせて楽しめるメニューがそろっています。
- LEGGO FOOD(s)** 県庁前公園ARKS(アルクス)内にあるカフェ、ランチやカフェメニューに加え、アルコールも楽しめます。テラス席あり。
- ギャラリー喫茶室 蛸蛸(こうもり)** アートに囲まれた、水辺の喫茶室。コーヒーやスイーツとともに、松原川の風景をゆっくり楽しめます。
- おにぎり工房 縁** お米、のり、具材、地元食材にこだわった、手むすびのおにぎり専門店。具材たっぷりの豚汁も人気。
- HARUcafé ハルカフェ** 佐賀パルンミュージアム2階のカフェ。開放感のある空間で、名物シリアリアライスなど佐賀の食材を使ったランチが楽しめます。
- 林檎亭** 多彩なメニューがそろう人気のお弁当屋さん。日替わり弁当やバスタなど約70種類の豊富なメニューを楽しめます。
- 本家 木原屋** 創業70年の老舗うなぎ専門店。香ばしいうなぎと受け継がれるタレの味わいが自慢です。
- ハンバーグ&バー POT** ハンバーグとお酒が楽しめるバー、ジュシーなハンバーグランチや、週末限定のカレーはボリュームもあり、人気です。
- しろいしもり(SHIROISHIMORI)** 白石の自然豊かな山と湖に育まれたお米と海苔を使い、心を込めて磨るおむすび店。定番から季節限定まで、季節の味も楽しめます。

詳しくは公式サイトをご覧ください。
お花見を彩る豪華なお弁当を眺めるお店も紹介しています!



※営業日・営業時間は変更となる場合があります。最新情報は各店舗の公式情報をご確認ください。



佐賀平野のクリーク 世界的事例は？

オランダ・ポルダー（干拓地）

- 低地を干拓し、水門や運河を使って排水・用水管理を行うという構造は、佐賀の有明海沿岸のクリークシステムと非常によく似ている。
- 特に、水の供給と排出を管理する思想が共通している。



佐賀が「新たな川の文化」を創出する！

- 川とクリークで折り込まれた佐賀平野
- 特有の有明海という「干潟の文化」と、「山の文化」が立体的に織りなす文化
- 「山（森）、川、海 海斗君」

将来の佐賀の姿は・・・

県の魅力度

都道府県魅力度ランキング2024			
順位	昨年順位	都道府県	魅力度 (点)
1	1	北海道	70.8
2	2	京都府	55.6
3	3	沖縄県	49.8
4	4	東京都	48.3
5	7	神奈川県	42.6
6	6	福岡県	42.0
7	5	大阪府	38.3
8	13	長野県	34.9
9	14	静岡県	34.6
10	9	石川県	33.9
11	14	兵庫県	33.3
12	10	長崎県	32.8
13	11	宮城県	32.3
14	8	奈良県	31.1
15	12	千葉県	30.1
16	17	広島県	30.0
17	19	鹿児島県	29.3
18	27	秋田県	28.1
19	22	富山県	26.7
20	16	愛知県	26.5
21	24	三重県	25.9
22	20	青森県	25.8
23	25	大分県	25.4
24	23	宮崎県	24.5
25	21	山梨県	24.3

都道府県魅力度ランキング2024			
順位	昨年順位	都道府県	魅力度 (点)
26	28	香川県	24.1
26	18	熊本県	24.1
28	34	愛媛県	23.3
29	30	和歌山県	22.9
30	26	新潟県	22.5
31	38	福井県	21.9
32	35	岡山県	21.6
33	31	山形県	21.4
34	39	岐阜県	21.2
35	29	岩手県	20.9
36	32	高知県	20.5
37	33	福島県	20.2
38	37	島根県	19.4
39	39	栃木県	19.2
40	36	滋賀県	19.1
41	44	群馬県	18.6
42	42	徳島県	18.0
43	42	山口県	17.3
44	41	鳥取県	16.3
45	47	茨城県	16.0
46	45	埼玉県	15.2
47	46	佐賀県	14.9

佐賀県は、昨年度の都道府県魅力度順位で、**47位**

これは、ただ事ではない。
中途半端じゃない！

観光的魅力はない？
刺激が少ない？

でも・だから、魅力は！

ちなみに、AIで「佐賀の魅力は？」と聞くと・・・

佐賀の魅力は何ですか？

佐賀は、**のんびりした雰囲気**の中に、**美しい自然**や**美味しい食べ物**、**歴史的なスポット**が詰まった魅力的な場所です。

▶ 佐賀県の強みは何ですか？

▶ 九州の北西部に位置する佐賀県は、**誠実でまじめな人柄**や、成長段階に応じた「人づくり」により育まれた**優秀な人財**、**少ない自然災害**、アジアに近く、九州の交通の要衝として**抜群の地理的環境**、**暮らしやすい環境**など、企業が立地する上での強みや、人が人らしく生活できる魅力にあふれています。

佐賀の魅力を考える……………ほんとにない？

でも、未来は、

情報化社会

メタバースの社会

環境重視、健康重視の社会

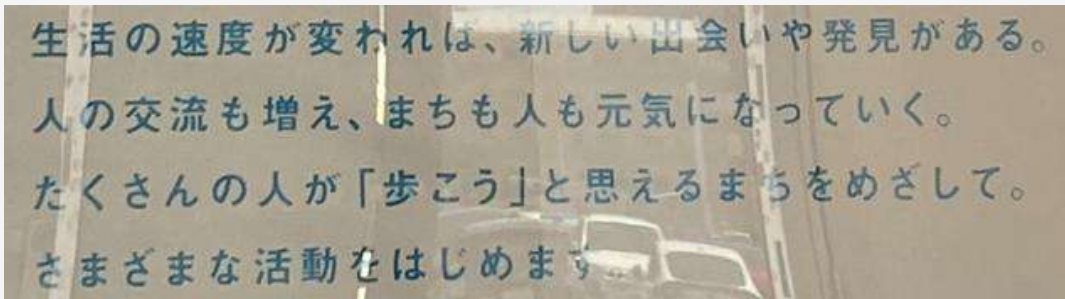
オタク（特化した才能・興味）が魅力になる時代

……………

「佐賀でなければ醸し出せない魅力」になる！

街で見つけた佐賀の魅力発見の秘訣とは

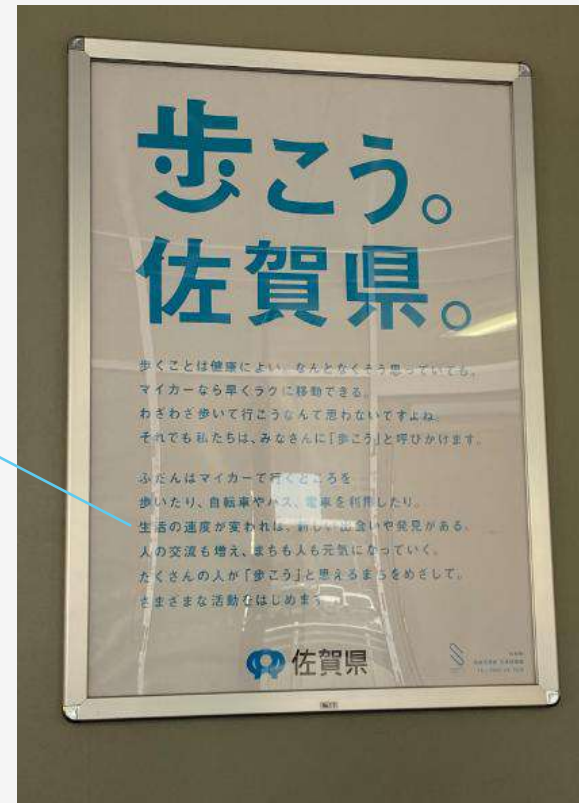
▶ こんなポスターが貼ってありました



『佐賀は、マイカーですっど行くより、歩いたり、自転車こいでぷらぷらすると、新しい出会いや発見があるのです！』

佐賀の人、みんな歩きましょう！』

というポスターです。



価値観は突然、転換する

107

例えば、……

川の仕事をやっていた30年前以前は……

九州で最も整備が進んでいた川は「遠賀川」、
最も遅れていた川は「矢部川」といわれていた。

「遠賀川」は、石炭産業を支える舟運のため、護岸整備が進んでいた川。コンクリートで固めたがちがちの水路。



遠賀川を航行する五平太舟



コンクリート護岸の遠賀川

一方、「矢部川」は、耕作地帯を流れる川で、利水（農業用水確保）の点では進んでいたが、治水では遅れていた。

突然、川の自然も大切。治水、利水、環境の三本柱。

環境面も考えると、「遠賀川」は×。「矢部川」は、○



遠賀川でも、やわらかいデザインの護岸になりつつあります

価値観が変われば、失われていた魅力が
発揮できることもある。

今までの価値観では、魅力がないと思われ
ていたものも、価値観が180度転換すると、
魅力的な場所になるかも



護岸で固めた河川では「川の魅力」は台無しになる。川の魅力を取り戻す護岸整備

世の中の流れの方向

- 均等・均質に豊か ⇒ 個性の表出（とんがった者勝ち）
- 都会の魅力・価値 ⇒ 地方の魅力・価値
- 文明重視の世界 ⇒ 文化重視の世界

**価値観が転換すると、
佐賀がトップに躍り出る！**

そのためには、「佐賀が持つ川の文化」を前面に取り出した地域づくりが希望のベクトルになるのではないか。

3. 川と文化を考える

嘉瀬川と佐賀

- ▶ **治水・利水の歴史:** 氾濫しやすい暴れ川。江戸初期の成富兵庫茂安による石井樋の築造で分流され、佐賀城下の水運（多布施川）や灌漑用水、飲料水が確保され、佐賀平野の発展の基盤となった。
- ▶ **産業と技術:** 多布施川の水を使い、水車で大砲の砲身をくり抜く反射炉が設置され、佐賀藩の技術力を象徴するものとなった。

佐賀の地名と嘉瀬川（嘉瀬町史より）

- ▶ 奈良時代、国毎に作成された最古の地誌の一つ「肥前風土記」によれば”佐嘉川の上流に荒ぶる神あり。往来の人、半ばを生かし半ばを殺しき”とあり、当時、暴れ川を鎮めたく、土地の支配者佐賀県主「大荒田」が、まだ朝廷に服従してなかった「土蜘蛛」の「大山田女」と「狭山田女」の二人の女性に占わせました。
- ▶ そこで二人は、下田の土で馬と人を造り、荒ぶる神を祀ったら、川は静まりました。そこで二人の女性は崇められ感謝されて「賢女（さかしめ）」と呼ばれました。賢女が佐賀の地名の由来となったとも言われています

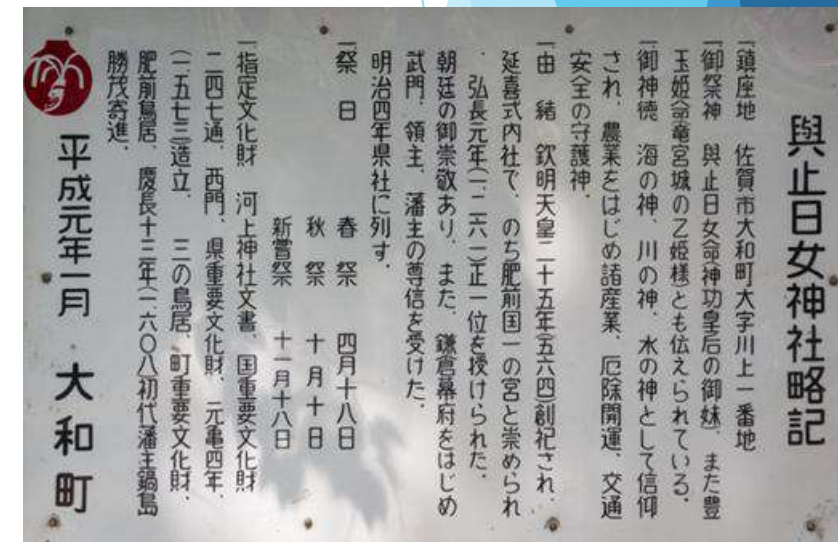
佐賀の名前の由来には、嘉瀬川の荒ぶる神の存在がある

嘉瀬川沿川の神社：

與止日女神社

與止日女命は、神功皇后の妹。また一説に、豊玉姫であるとも伝える。海の神、川の神、水の神として信仰され、農業を始めとした諸産業、厄除け開運、交通安全の守護神。

水のエネルギー（浄化）：水の女神を祀るため、心身を洗い流す高い浄化力を持つとされています。



嘉瀬川沿川の神社：

八の坪天神

佐賀市久保田町。嘉瀬川堤防近く
あり、水難除けの信仰を集める。

祭神は菅原道真であり、水害が起きない
ようにと祈りが込められている。

龍宮社（ひゃーらんさん）

八幡神社（ひゃーらんさん）

水難除けの神様。



地域文化を育てる軸の一つが「嘉瀬川」

- 嘉瀬川を軸とした川の文化を創出し、育てるためには、佐賀市民が、嘉瀬川に対する感謝の気持ちを持たなければいけない
- 現在は、嘉瀬川に対し、洪水の恐怖等のマイナスのイメージが強いと思われる。が、今後、治水事業が進み、安心して嘉瀬川と暮らせるようになっていく。
- その時に、嘉瀬川の恵みをより強く感じるような市民意識の醸成が合わせて進んでいくことが望まれる。

「嘉瀬川」への感謝の念を育む環境づくり

- 感謝の念は、強制されるものでなく、自発的なものでなければいけない。
- 「当たり前」と思われることの見える化が必要。
- 川の恵みを受けただけでなく、川の清掃活動、観察活動を通して、川に与えることを行うことが必要
- 「水ものがたり館」でのいろいろな学習活動・周知活動に、常に、「嘉瀬川への感謝」を織り込む。

川と共に生きる

- 佐賀が持つ「川の文化」を前面に取り出した地域づくり
- 日常的：散歩、運動、・・・
- 非日常的：イベント、祭り・・・

- これらを支えるもの ⇒ 情報（SNS発信・・・）
- 「便利さ」と「自然との関係」のバランスを考え直そう（AI提案）

なぜ、今、「文化」なのか？

- ▶ 近代化の流れを受けた時代というのは、大量生産、脱個性の時代だった。
- ▶ 均一な社会により豊かにはなったが、個性、こだわりなど、質を求める社会になりつつある。
- ▶ 一方で、グローバル化の波を受け、地域の個性が失われつつある。
- ▶ 「文化」とは、地域の個性そのものである。

地域の個性の基礎となる概念的なものとは

- かつては、自然物である「川」には、川の神様という聖的なもの、霊的な存在があり、それが信仰や祭りなどの地域文化を育んできた。
- 近代化という名のもとに、聖的なもの、霊的なものへの考えが廃れ、あわせて、自然への感謝や畏敬の念が薄れてきたのではなかろうか。

川の文化は、そこから再び始るような気がする。

- 自然の豊かさ、美しさ、素晴らしさに、改めて目を向け、その環境に感謝し、慈しむこころを持つ
- 豊かな想像力を養い、地域の物語を生み出していく

魅力ある、豊かな生き方ができる地域づくりにつながる

「川」と「人間社会」との関り

物理的側面：境、交通路など

精神的側面：祭、信仰、伝説など

詩情的側面：風景、絵、歌など

	過去	現在	望まれる未来
物理的側面	○	◎	◎
精神的側面	◎	△⇒— (衰退しつつある)	◎ (過去と違った形で)
詩情的側面	△	○	◎

新たな「川の文化」が生まれる？

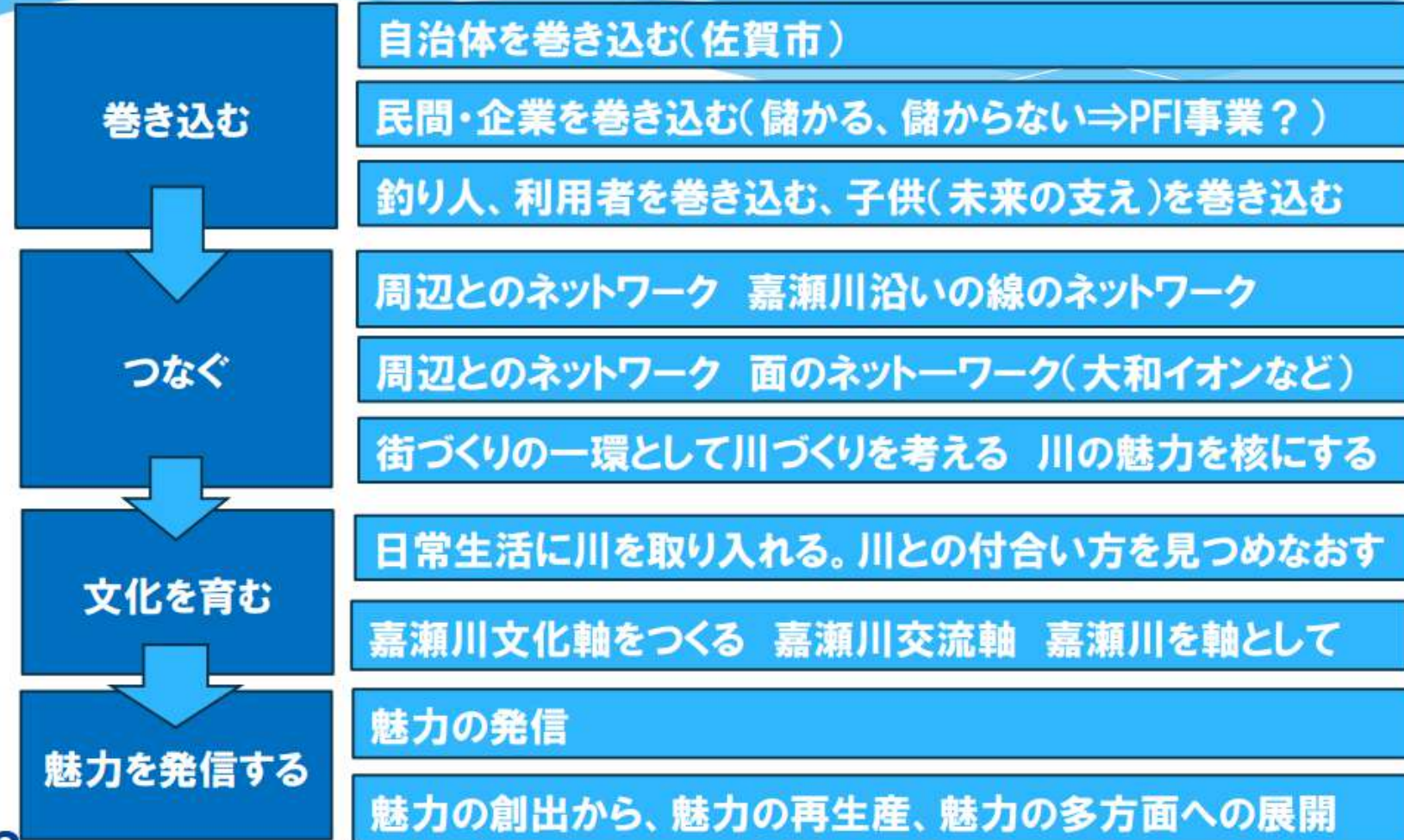
第4部

嘉瀬川と創り出す「川の文化」とは

アイデア

POINT3 すでに河川利活用を取り巻く環境は作られつつある

嘉瀬川とふれあう文化を育む



川の文化を地域で育てるには

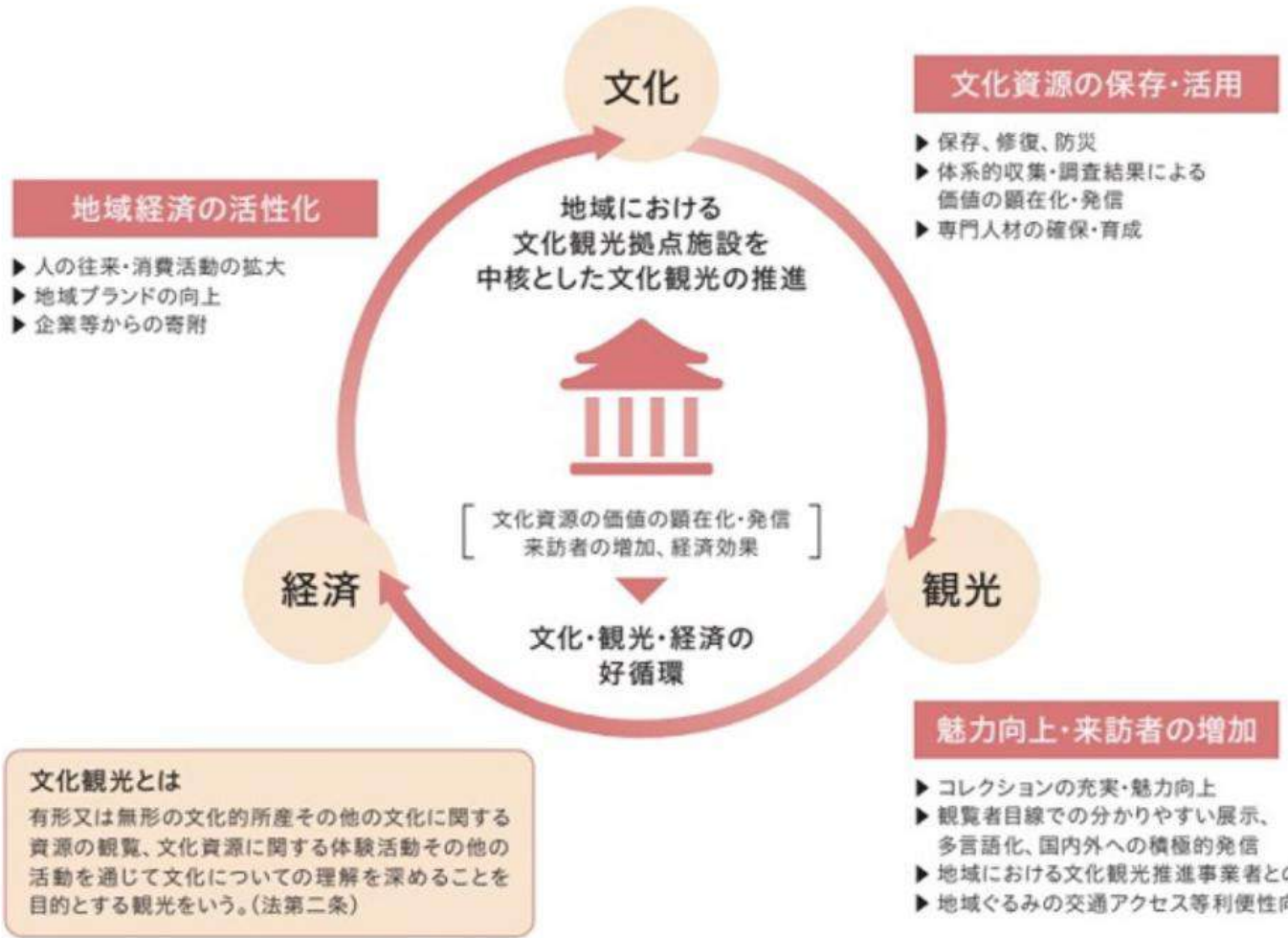
- 「文化」は、精神文化、社会文化、物質文化の区分される。
- 多くは、公的支援を受け、活動が行われている。
- ただし、精神文化の宗教等の個別の団体？の利益につながる事業については、公的な支援は行われない。

ちなみに、文化庁が行っている事業を見てみると

文化庁とは

- ▶ 文化庁は1968年（昭和43年）6月に創設され、その後、地方創生の一環として2023年3月に一部機能が京都へ移転している。
- ▶ 文化庁では、我が国の芸術文化を振興するため、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術創造活動への支援、若手をはじめとする芸術家の育成、子供の文化芸術体験の充実、地域の芸術文化活動への支援、文化庁メディア芸術祭の開催をはじめとした映画やアニメーション、マンガ等のメディア芸術の振興等に取り組んでいる。

公的に対応可能な分野



もう一度、「文化」について考える

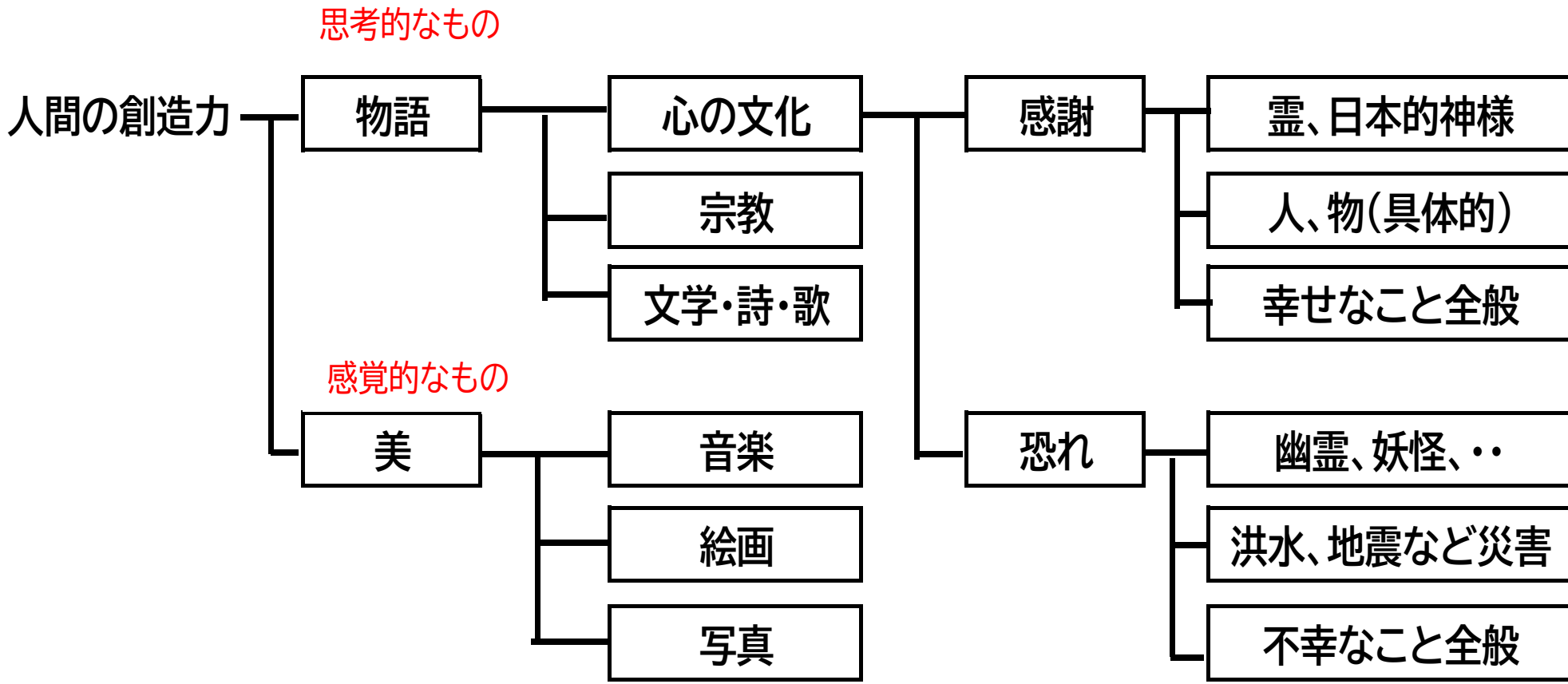
- 「文化」には、「精神文化」「社会文化」「物質文化」があるという。そのなかの「精神文化」に着目してみると・・・

精神文化

- ・宗教
- ・学問
- ・言語
- ・芸術鑑賞者

- これは、いろいろな概念が入っていきそうなので、私なりに整理してみた。

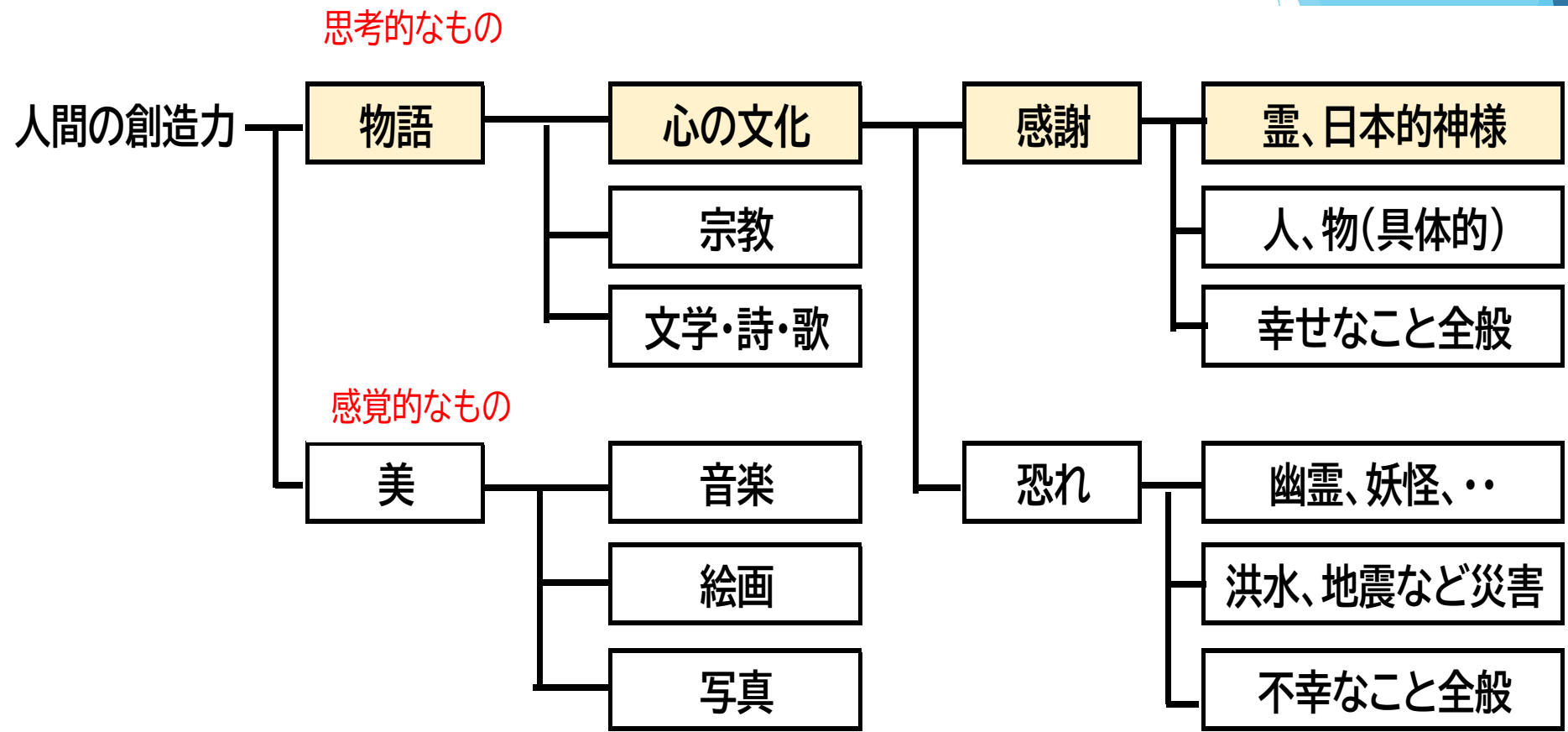
精神文化



言語、教育

精神文化を支えるもの

精神文化



言語、教育

精神文化を支えるもの

公共事業の限界 ⇒ 市民＋企業＋学

- 具体的な対象がある「感謝」と、実在する存在からはなれた物語性を持った対象に対する「感謝」がある。
- 例えば、ダム感謝祭で、地域の貢献、ダム建設者の努力等に感謝することと、地鎮祭のように地域の守り神に感謝することがある。
- つまり、洪水からの「恐怖」を取り除くのは、公共の仕事かもしれないが、水や川への「感謝」を表すことは、県や市などの公共団体（国民の代理人）が関わるものではなく、活動主体である市民や企業・組織が自ら直接的に自らが行う行為である。

一つの方策：「シビック・プライド」

- シビックプライド（Civic Pride）とは、住民が地域に対して抱く「誇り」や「愛着」を指し、自らの手でまちをより良くしていこうとする「当事者意識（シチズンシップ）」を伴う概念です。
- 郷土愛とは異なり、地域への積極的な関与や貢献（アクション）が重視されます。近年、自治体や都市の魅力向上（シティプロモーション）の観点から非常に注目されています。

シビック・プライドとは？

河川におけるシビック・プライド（地域への誇り・愛着）活動は、住民が主体となって水辺空間の価値を再発見し、維持・活用することで、まちへの当事者意識を醸成する取り組みです。

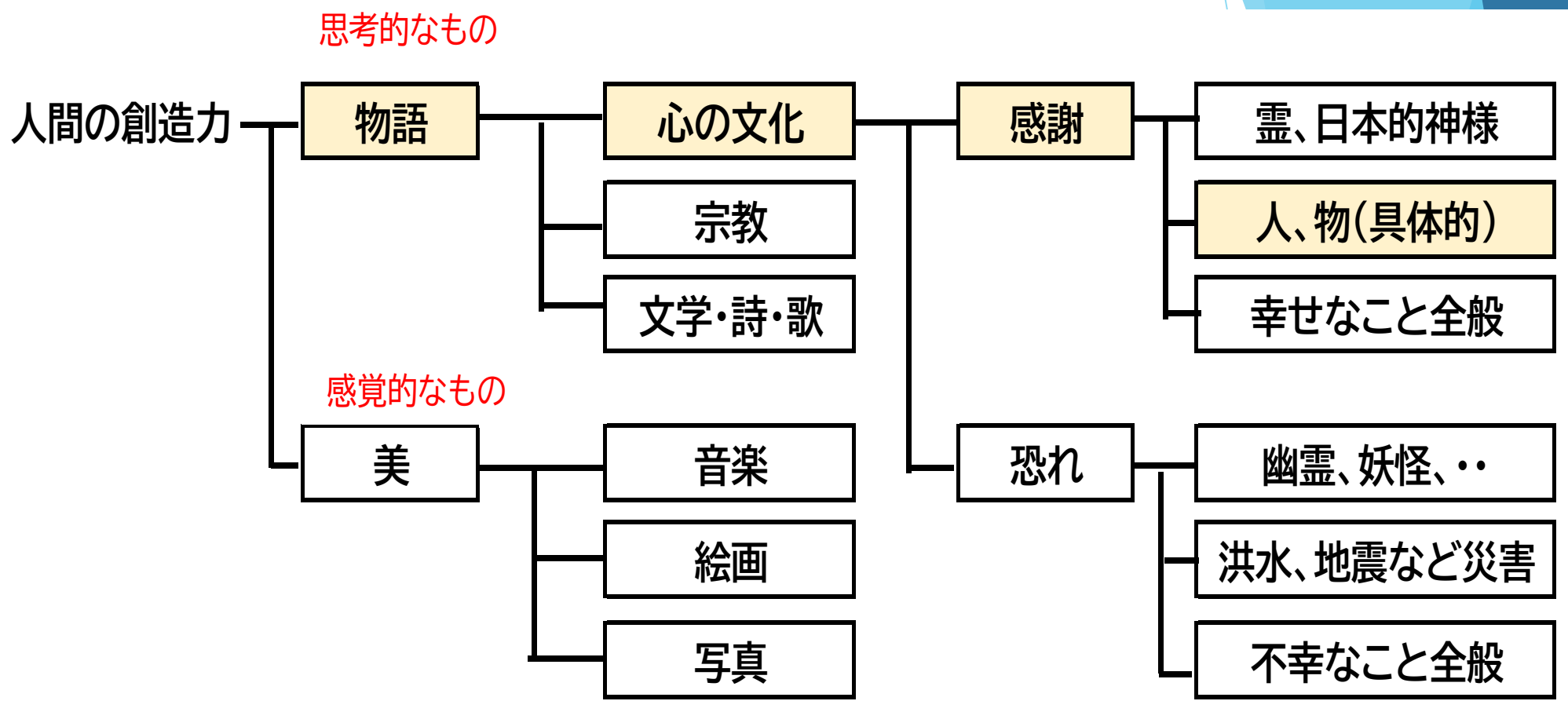
嘉瀬川を知る

- ▶ 「嘉瀬川検定」を創設。初級・中級・上級を設け、上級に合格すると「嘉瀬川アンバサダー」の称号を得られる。
- ▶ 「嘉瀬川ガイド」の育成。石井樋を始め、嘉瀬川を紹介するガイドを育成する。

精神文化を育てるには

- 「精神文化」の一つである「心の文化（感謝と恐れ）」にあたる日本的な神様・霊や妖怪のような「日本特有の精神文化」は、「宗教」とは別のものにしてきちんと評価する必要がある。
- そうしなければ、「神様」の名がつくものは、すべて個別宗教組織に分類され、公共事業では行えない。もちろん、公共事業に頼ることなく、自立的に市民自らが行うことも必要だが、日本文化を守るという意味では、公共性があるべきと思う。

精神文化



思考的なもの

感覚的なもの

言語、教育

精神文化を支えるもの

人物・ものに感謝する

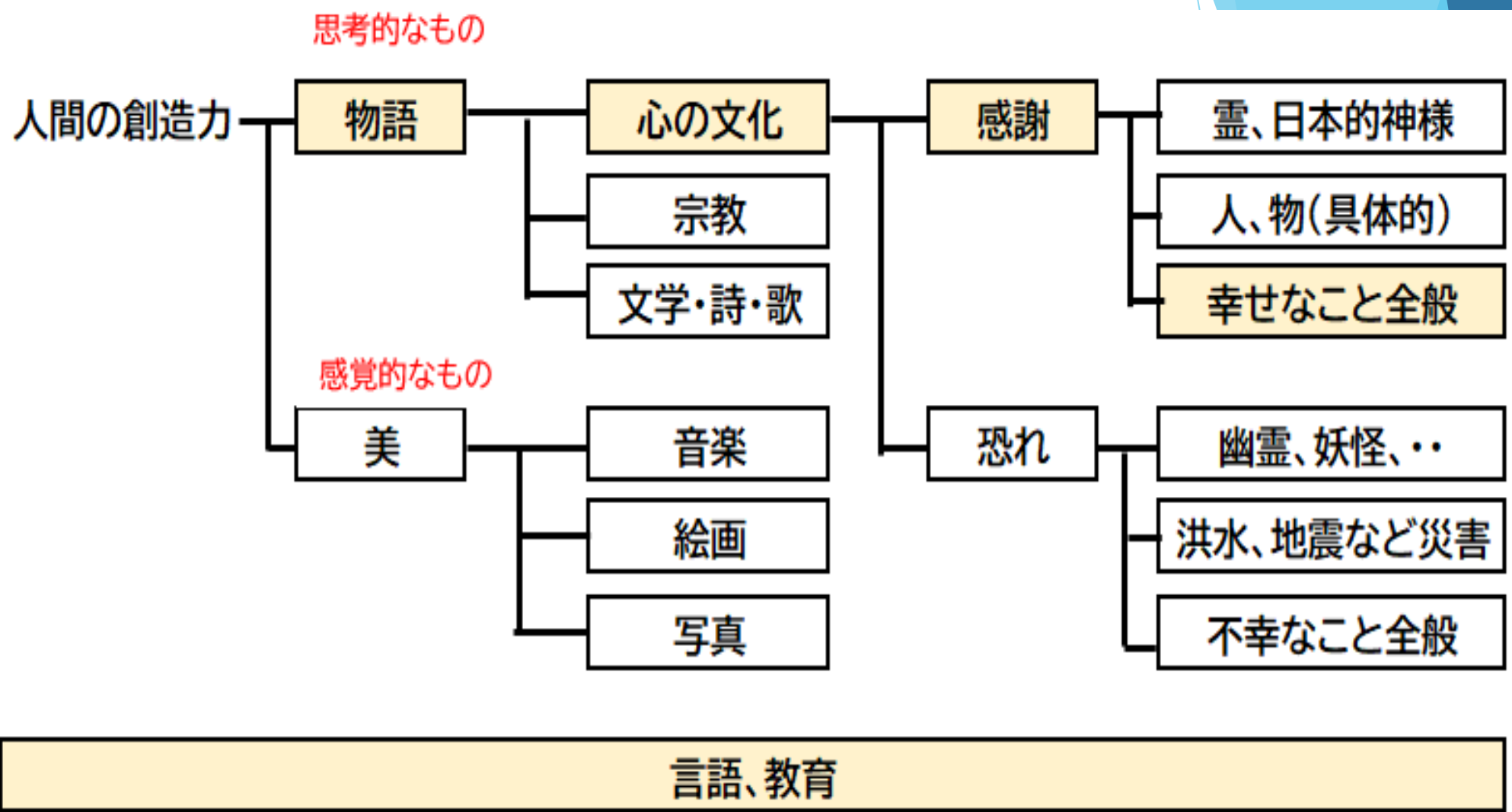
- 成富兵庫茂安のドラマ・映画をつくる
- ○○感謝祭、○○感謝記念日の創設



「NPO山田の風」HPより

【水の神様】成富兵庫茂安公 ～その生涯と功績～
動画を配信している。

精神文化



言語、教育

精神文化を支えるもの

生きている幸せを嘉瀬川で実感する

- 嘉瀬川 「投石競技会」の開催
 - クリーク 「アオ取水競技会」
- ・・・ 嘉瀬川・クリーク 運動会・文化祭



2月28日開催された投石会

生きている幸せを嘉瀬川で実感する

- 嘉瀬川 「バーベキュー」「キャンプ」「マルシェ」等のイベント開催



毎年恒例の「ヌマンデー」

さが水ものがたり館

駐車場

生きている幸せを嘉瀬川で実感する

嘉瀬川石井樋歴史水公園へパークPFI導入

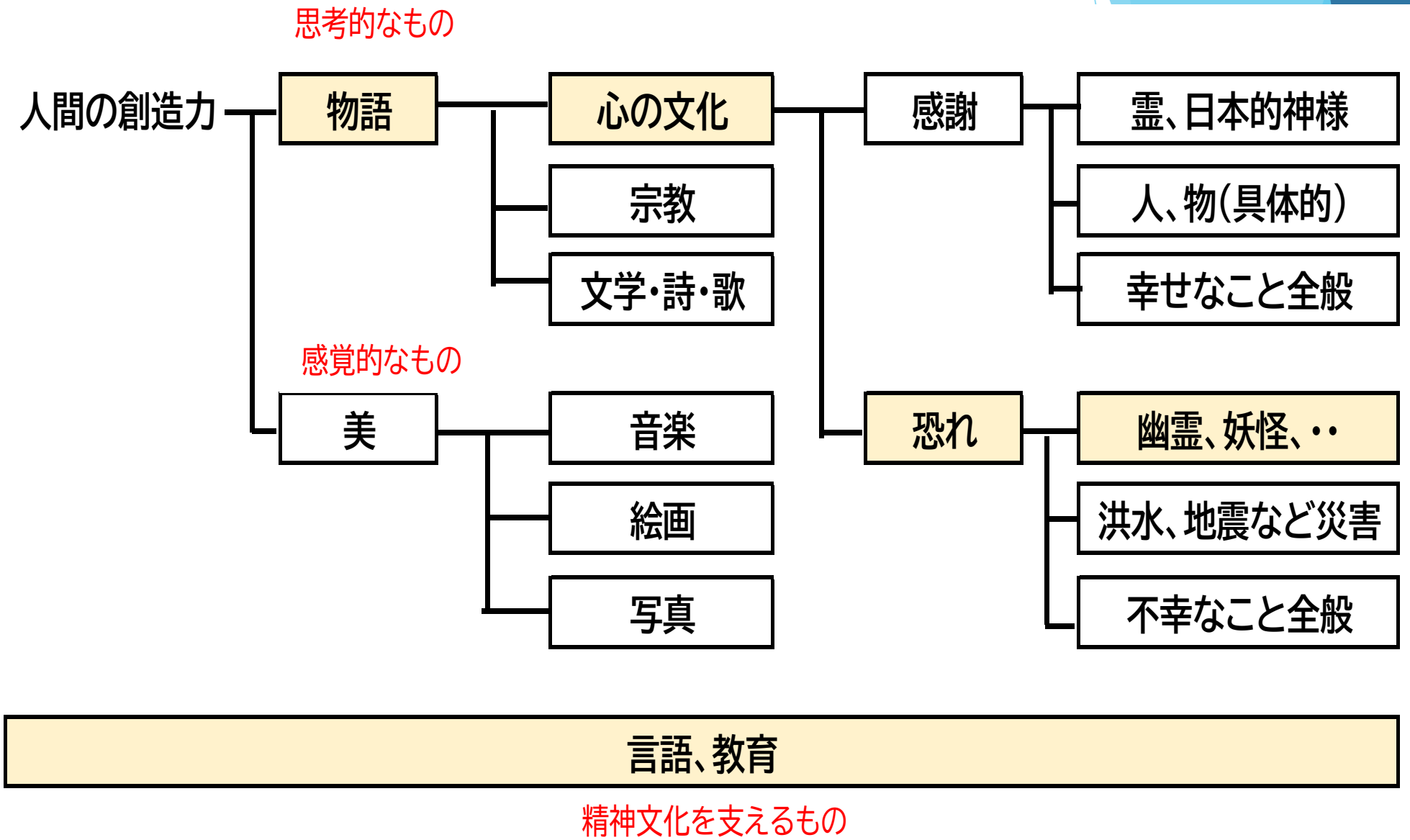


ミズベリング「かわまちてらす」事例



	カフェなどの収益施設	広場、園路などの公共部分
従前	民間資金	公的資金
パークPFI	民間資金	収益を充当 公的資金

精神文化



妖怪などの活用？

□ 嘉瀬川にまつわる妖怪？ 「ひょうすべ」の活用？

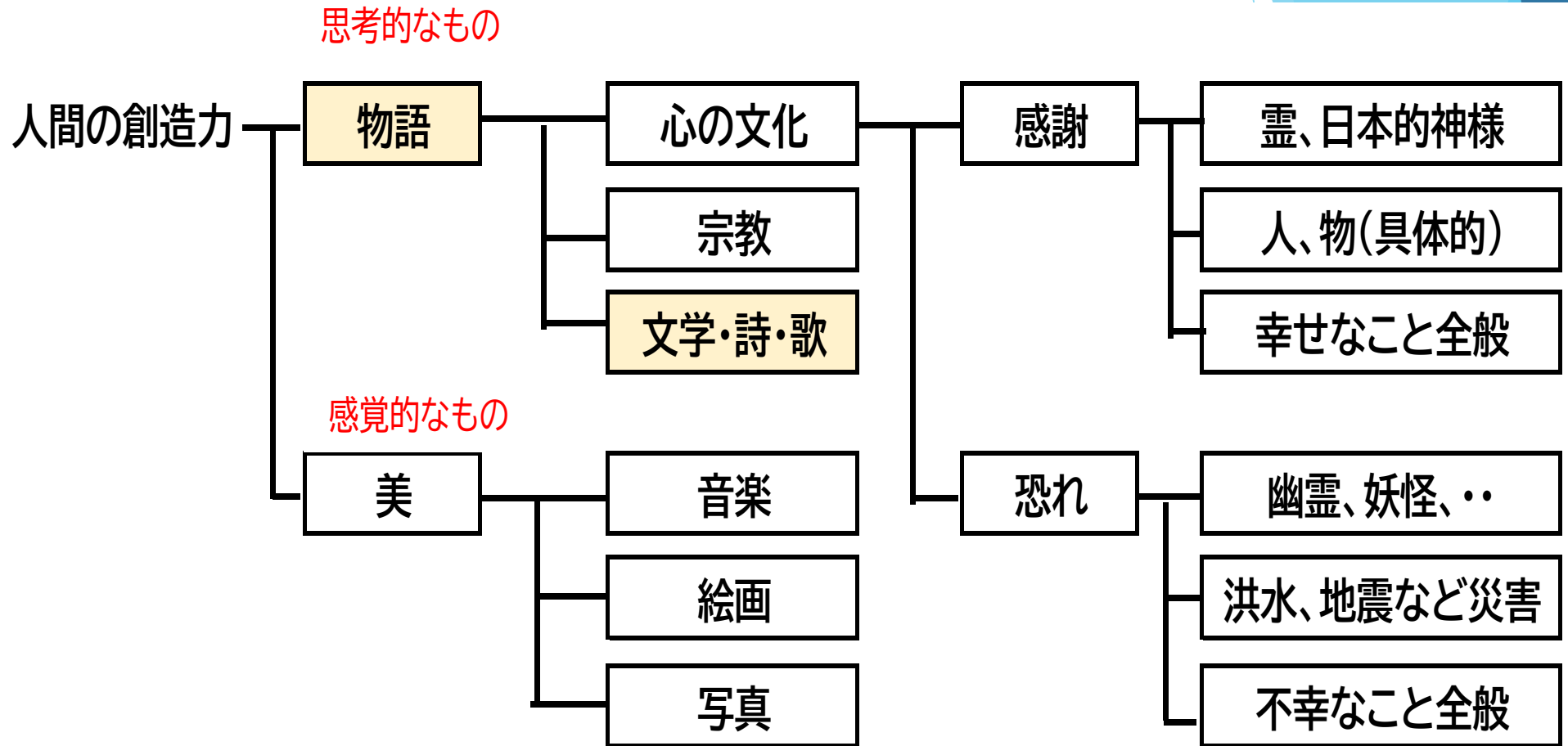


鳥取県境港市では、「ゲゲゲの鬼太郎」をシンボルにして活性化を図っている



「嘉瀬川や多布施川周辺では、河童の一種とされる「ひょうすべ」の話が伝わっている。河童に似ていますが、より全身が毛深く、頭に皿がなく、非常に臭いとも言われる妖怪。夜中に川から這い上がり、キュウリやスイカを食べる、あるいは悪さをするとされている。佐賀市大和町周辺など、川の近くの家屋や田畑に現れるとされている。

精神文化



言語、教育

精神文化を支えるもの

文学・詩・歌

- 「嘉瀬川」をテーマにした音楽
- 「嘉瀬川」を舞台にした映画
- 「嘉瀬川」を題材にした詩集をつくる

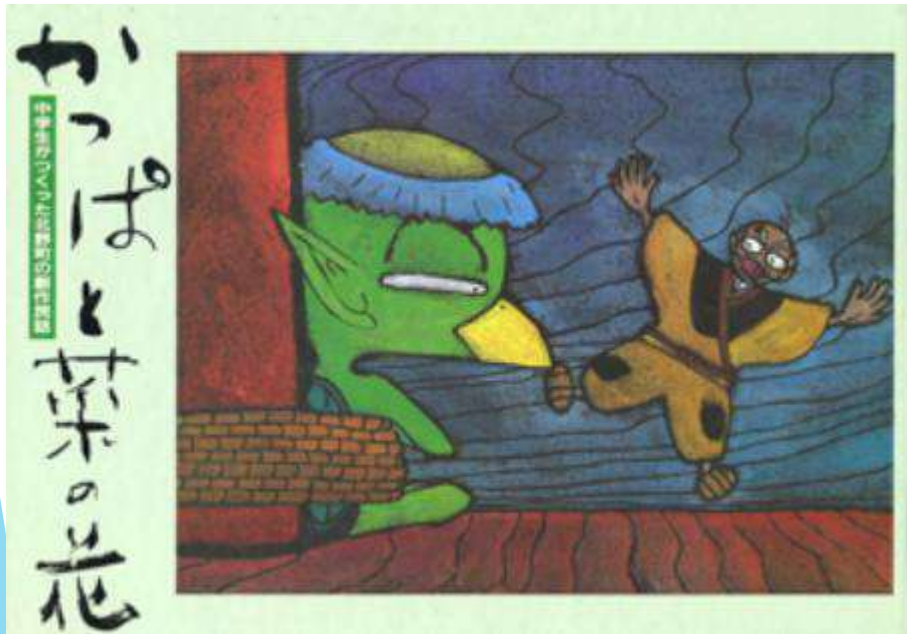
合唱組曲「筑後川」

團伊玖磨が作曲した合唱組曲の中でもっとも有名な曲。曲は第1楽章「みなかみ」、第2楽章「ダムにて」、第3楽章「銀の魚」、第4楽章「川の祭」、第5楽章「河口」の5曲からなる。



創作「嘉瀬川 民話」

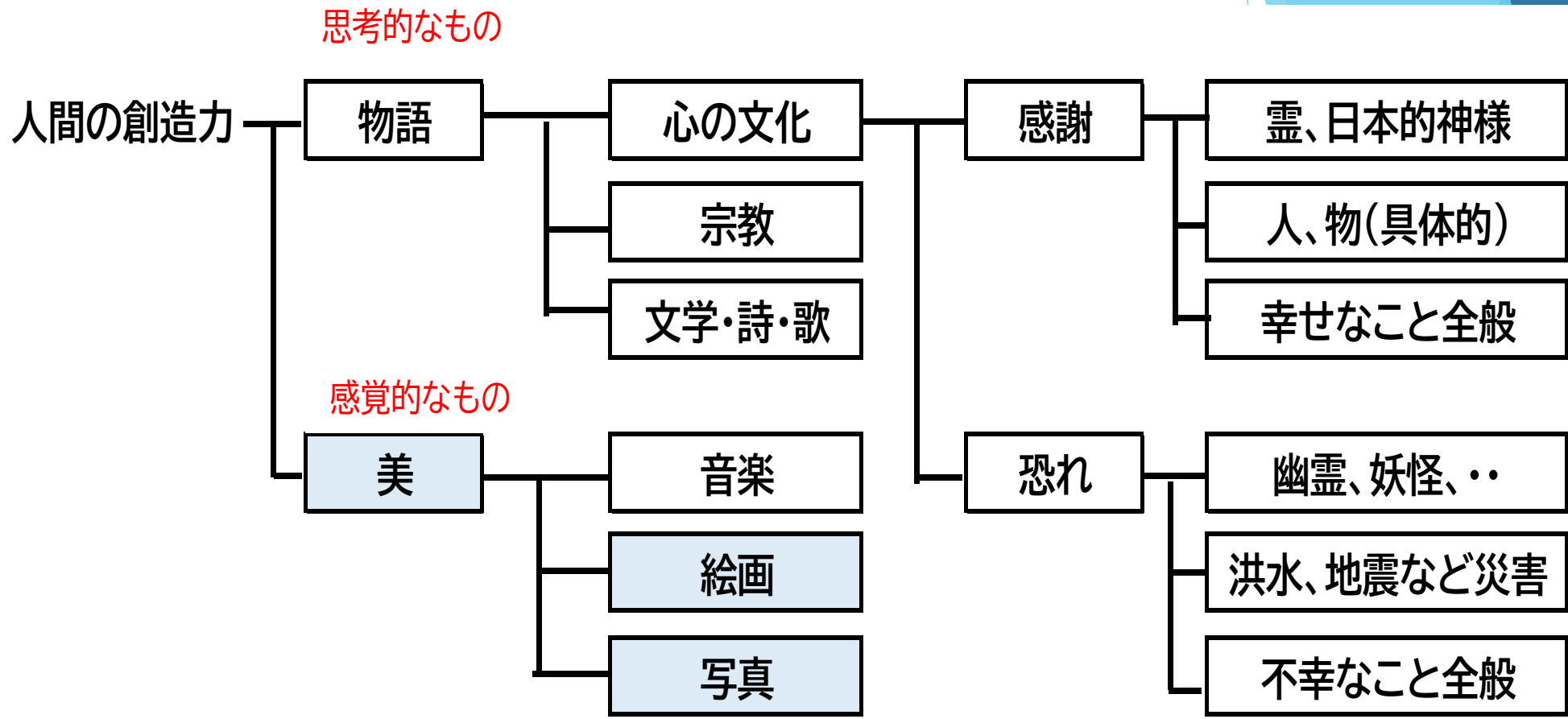
□ 「嘉瀬川」を舞台とした物語をつくる



嘉瀬川沿川に住む人の想像力、物語構想力を養う
(児童、学生など、若い人に創ってもらうことも)

地元の中学生在が作った「民話集」

精神文化



言語、教育

精神文化を支えるもの

写真・絵画

□ 「嘉瀬川」を象徴する写真（フォト）



嘉瀬川フォトコンテスト等を
催し、嘉瀬川のシンボルにな
るような写真を決める

今、嘉瀬川を代表する写真は、バルーン大会のものになっている
ただ、非日常の写真。日常の嘉瀬川の魅力を表現した写真が欲しい



四万十川の
シンボリック的印象写真

写真・絵画

- 「嘉瀬川」をの季節感あふれるカレンダー製作
嘉瀬川の祭り、催し物などを掲載



嘉瀬川フォトコンテスト等を
催し、嘉瀬川の四季折々の
写真をカレンダーにする

その他

- 「嘉瀬川文化調査」の実施
- これまでの嘉瀬川に関連する文化に関わる資料を整理する。



佐賀県内の「碑」
(記念・慰霊・歴史的記録のために
建立されたもの)
を調べた資料



嘉瀬川ダム建設時には、文化財調査が行われている。そのひとつ、「戦国武将神代勝利(くましろうかつとし)の活躍」の資料

その他

- 「嘉瀬川検定」の普及
 - 嘉瀬川インストラクター
 - キャンプディレクター
 - フィールドマスター
- （森川海人っプロジェクト）
- などなど・・・・

2014年作成の
嘉瀬川・嘉瀬川ダ
ム検定テキスト



その他

□ 「クリーク国際会議」の開催



オランダ・ポルダー(干拓地)

低地を干拓し、水門や運河を使って排水・用水管理を行うという構造は、佐賀の有明海沿岸のクリークシステムと非常によく似ています。特に、水の供給と排出を管理する思想が共通しています。

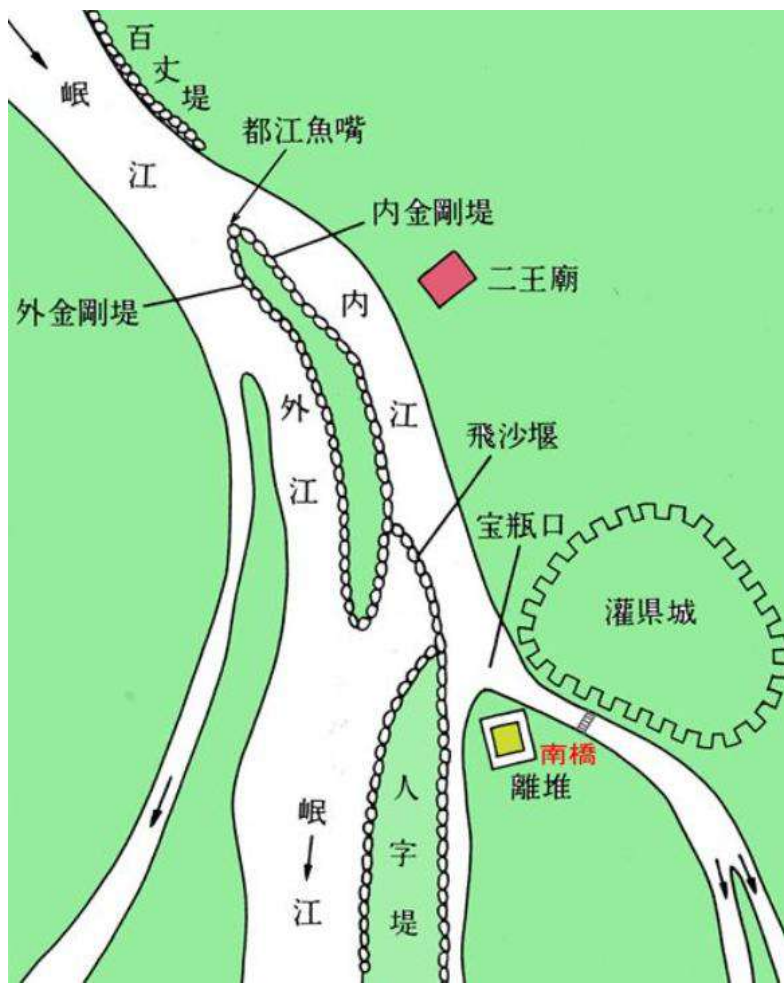
□ 「都江堰（中国）」との連携

「都江堰」は、中国・四川省の省都・成都の西方約60km、岷江の中流部に位置し、秦の時代(BC221～BC206)に築造された水利施設。

都江堰は、岷江の氾濫による水害を治めるとともに、成都の大平原に岷江の水を引いて地域に豊かな恵みをもたらし、後の秦の天下統一に大きく貢献した。

以来、2300年余りの時を経た現在も、農業用水ばかりではなく、生活用水・工業用水をも賄って地域に豊かな恵みをもたらしている。





魚嘴（分水施設）：都江堰が岷江を外江と内江に分けるのに対し、石井樋は天狗の鼻や象の鼻と呼ばれる導水施設で、嘉瀬川の水を多布施川に引き込みます。

金剛堤：石井樋では、中ノ島や周囲の堤防が、この役割を果たしています。

飛沙堰（余水吐）：洪水時に余分な水を本川（嘉瀬川）に戻す「野越（のこし）」という機能が、都江堰の飛沙堰に対応しています。

宝瓶口（取水口）：石井樋そのもの（三連の石閘・石造樋管）が、水を安全に取り入れる取水口の役割を果たします。

都江堰で買ったお土産 (文鎮)

右:「低作堰」
堰は低く作る

左:「深淘濶」
濶には深く水をたたえたる



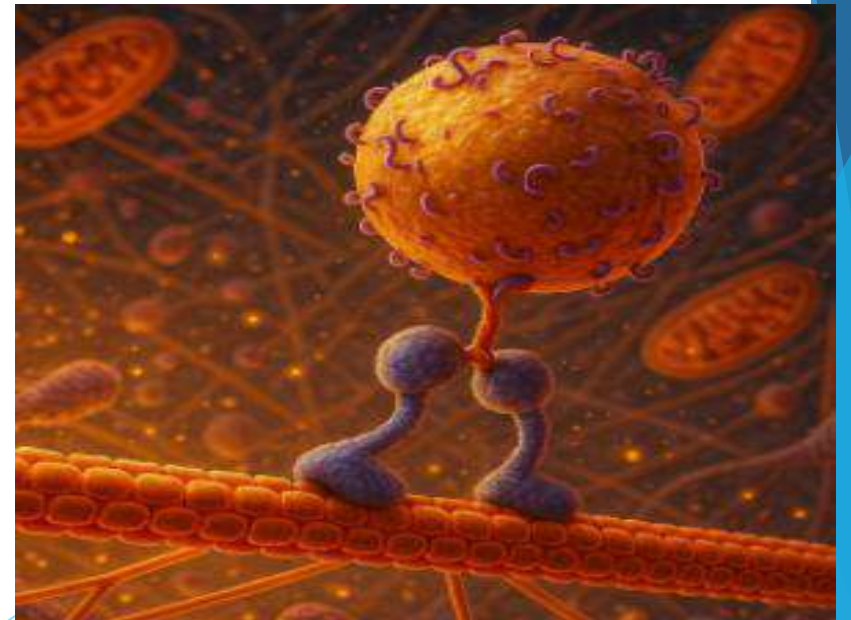
おまけ

地域の個性とは？

- **地域の特色は、観光的な歴史遺産のあるなし、農地・工業団地・大型商業施設等の地域を支える産業のありかた、平野・山地、海岸などの地形的なものなど、表層的なもののみで捉えられるものではない。**
- **地域の個性は、人間社会のもっと基礎的な、基本的な奥深い概念、精神基盤のようなもので創り出されるものと思っている。⇒ 地域の文化的要素が重要**

- **科学、技術力が急速に進歩し、今までわからなかったことが、わかるようになってきた。**
- **しかし、新たにわかってきたことが、さらに、多くのわからないことがあることを思い知らされている。生命の不思議！！**

**例えば、生命の不思議。
モータータンパク質！！**



- 私たちは、科学、技術力が急速に進歩すれば、すべて解明できるとうぬぼれていたが・・・
- この世界は、未知のことであふれている。
- この素晴らしい世界に、自分が存在していることは奇跡と呼ぶしかない。
- 科学・技術力を背景としたうえで、かつて日本人が持っていた自然への感謝の念、畏怖の念を抱くことが必要な時代が来るのではないか。
- 川の文化は、そこから再び始まるような気がする。

精神的側面（聖なるもの）の復活

- かつて、「川」に水神様が宿ると考えていた時代は、川の恵みに感謝していた。農作物が田畑から育ち、おいしく食べられることなど、水神様、田の神様に感謝していた。
- 今は、おいしい食事を毎日食べられるのは、給料を稼ぐ親、料理してくれる料理人、農家の人への感謝に変わった。
- 感謝するということは、大切に思うということ。

精神的側面（聖なるもの）の復活

- 感謝するということは、大切に思うということ。
- 今、「川（嘉瀬川）」に関心を持ち、思いを寄せるということは、川を大切に思い、川に感謝する思いが育つことが欠かせないと思われる。
- 公共事業では、「神」など宗教的なことにかかわることはご法度になっている。そのため、川は聖なるものであると思い出し、地域と川のかかわりを深めようとするには、市民活動が必要。

精神的側面（聖なるもの）

- 川の精霊は、水辺（河川、湖、泉）に宿る神聖な存在や妖怪の総称であり、古くから自然崇拝の対象とされてきました。日本における河童やミヅチ（水神の系統）、ギリシャ神話のナイアデス、西洋のウンディーネなどが代表的で、豊穡、治癒、あるいは危険な水難をもたらす力を持つと伝承されています。
- カツパ（河童）：水神が姿を変えたものとも言われ、川に住む親しみのある精霊。
- ミヅチ（水霊）：水中に住む龍や蛇の系統で、水そのものが持つ霊力。

精神的側面（聖なるもの）

- 弁天様とは、弁財天の略称で、もともとはサラスバティーという古代インドの川の女神である。豊饒の神としてあがめられ、川の流れの音からの連想で音楽と弁舌（知恵）の神様として信仰されていたようだ。
- 平安時代以降に真言密教が普及するにつれて、しだいに固有の民俗信仰と習合していったそうので、漁村では漁の神様、農村では水利や農耕の神様として信仰されてきた。

嘉瀬川 河川整備の基本理念

「歴史情緒あふれる自然豊かな嘉瀬川」

～嘉瀬川流域の風土・歴史・文化に根ざした川づくりを目指すため～

治水

災害から流域住民の貴重な生命、財産を守り、安全で安心してく
らせる川づくり

利水

川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

環境

嘉瀬川らしい自然環境と歴史を保全・創出し、将来に継承する川づくり

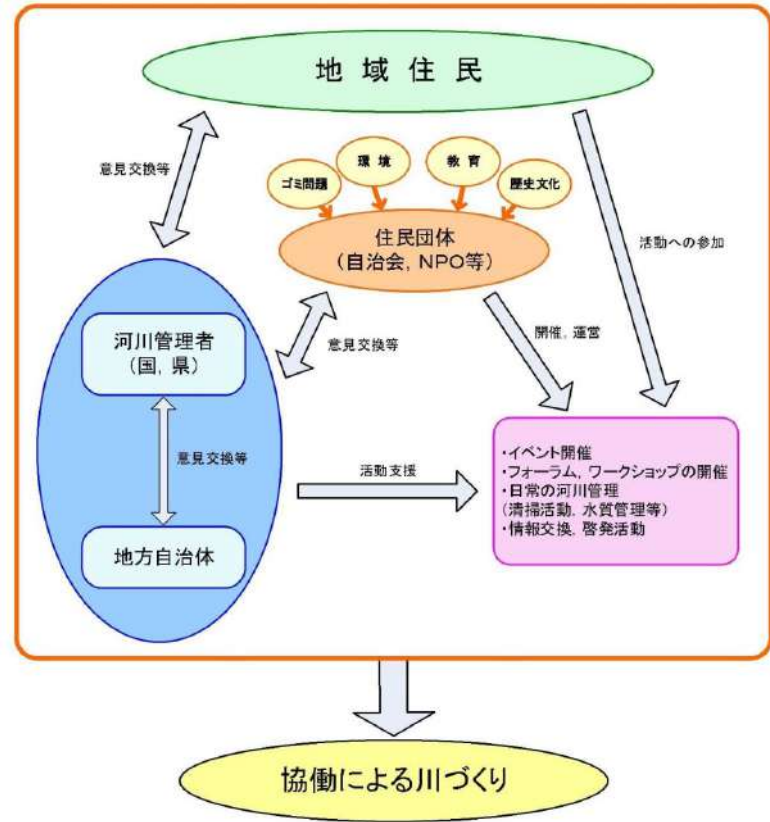


図 5.9.1 生態系ネットワークの形成イメージ

ご清聴ありがとうございました

